

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年2月28日
【事業年度】	第3期(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)
【会社名】	株式会社ファンドクリエーショングループ
【英訳名】	Fund Creation Group Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田島 克洋
【本店の所在の場所】	東京都千代田区麹町一丁目4番地
【電話番号】	03-5212-5212
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 吉田 隆
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区麹町一丁目4番地
【電話番号】	03-5212-5212
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 吉田 隆
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1)連結経営指標等

回次 決算年月	第1期 平成21年11月	第2期 平成22年11月	第3期 平成23年11月
売上高 (百万円)	704	1,859	842
経常損失 () (百万円)	319	121	31
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	437	157	66
包括利益 (百万円)	-	-	44
純資産額 (百万円)	1,195	1,136	1,328
総資産額 (百万円)	9,902	8,780	8,629
1株当たり純資産額 (円)	35.46	31.94	36.00
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 () (円)	13.13	4.58	1.85
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	11.9	12.9	15.3
自己資本利益率 (%)	37.0	14.0	5.0
株価収益率 (倍)	-	-	40.54
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	80	959	135
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	236	5	135
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	309	900	173
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	1,041	1,102	927
従業員数 (人)	65	46	35
(外、平均臨時雇用者数)	(3)	(3)	(2)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第1期及び第2期は1株当たり当期純損失を計上しているため記載しておりません。また、第3期は、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。

3. 株価収益率については、第1期及び第2期は1株当たり当期純損失を計上しているため記載しておりません。

4. 当社は、平成21年5月1日に株式移転により設立されたため第1期より前の数値は記載しておりません。また、第1期の連結会計年度は、平成21年5月1日から平成21年11月30日までであります。

5. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向数を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第1期 平成21年11月	第2期 平成22年11月	第3期 平成23年11月
営業収益 (百万円)	54	75	61
経常利益 (百万円)	2	0	9
当期純利益又は当期純損失() (百万円)	1	4	117
資本金 (百万円)	1,000	1,056	1,131
発行済株式総数 (株)	33,588,800	35,638,800	37,067,371
純資産額 (百万円)	1,479	1,588	1,852
総資産額 (百万円)	2,082	2,190	2,374
1株当たり純資産額 (円)	44.05	44.56	49.97
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純利益金額又は1 株当たり当期純損失金額() (円)	0.03	0.12	3.25
潜在株式調整後1株当たり当期純 利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	71.0	72.5	78.0
自己資本利益率 (%)	0.1	0.3	6.3
株価収益率 (倍)	1,550.0	-	23.08
配当性向 (%)	-	-	-
従業員数 (人)	6	5	5

(注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第1期及び第3期は、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。また、第2期は1株当たり当期純損失を計上しているため記載しておりません。

3. 株価収益率については、第2期は1株当たり当期純損失を計上しているため記載しておりません。

4. 当社は、平成21年5月1日に設立されたため第1期より前の数値は記載しておりません。また、第1期の事業年度は、平成21年5月1日から平成21年11月30日までであります。

2【沿革】

当社の沿革

平成21年5月	(株)ファンドクリエーションが株式移転の方法により当社を設立
平成21年8月	当社の普通株式をジャスダック証券取引所〔現：大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）〕に上場 (株)ファンドクリエーションが保有するファンドクリエーション不動産投信(株)及びファンドクリエーション・アール・エム(株)の全株式を取得
平成21年10月	(株)ファンドクリエーションが保有するFC Investment Ltd.の全株式を取得
平成21年11月	(株)ファンドクリエーションが保有するFCパートナーズ(株)及び(株)FCインベストメント・アドバイザーズの全株式を取得
平成23年5月	本社を東京都千代田区麹町一丁目4番地に移転
平成23年8月	ファンドクリエーション不動産投信(株)の全株式を外部へ売却

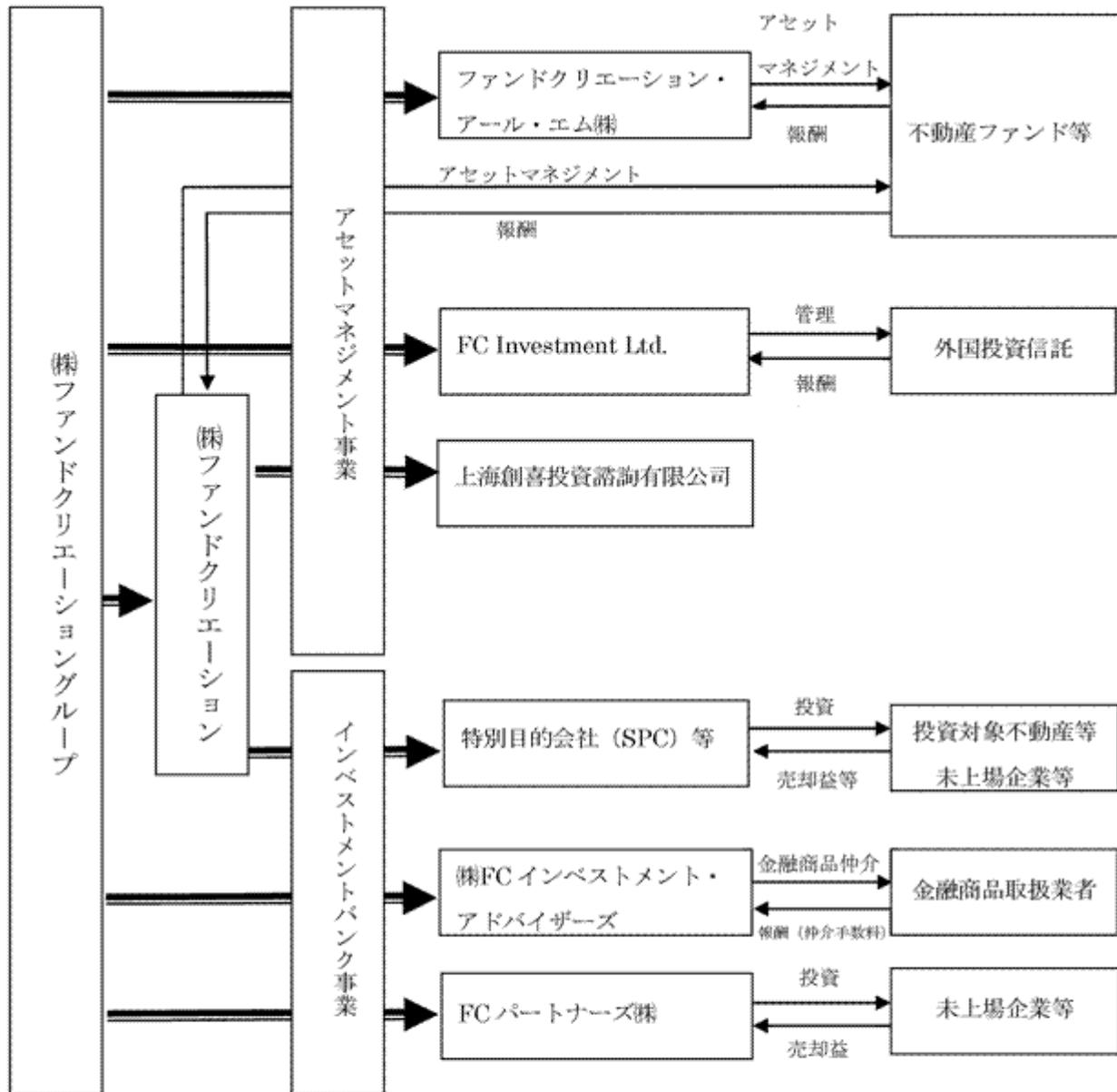
当社の株式移転に伴う完全子会社である(株)ファンドクリエーションの沿革

平成14年12月	東京都港区においてファンドの開発、運用を行うことを目的に当社を設立
平成15年7月	本社を東京都港区六本木六丁目15番1号に移転
平成15年9月	ファンドの管理業務を行うことを目的に、FC Investment Ltd.を設立
平成16年2月	投資法人資産運用業を行うことを目的に、FCリート・アドバイザーズ(株)（現：ファンドクリエーション不動産投信(株)）を設立
平成16年6月	本社を東京都港区六本木六丁目10番1号に移転
平成16年6月	証券仲介業を行うことを目的に、(株)FCインベストメント・アドバイザーズを設立
平成16年7月	中国におけるマーケティング業務及びコンサルティング業務を行うことを目的に、上海創喜投資諮詢有限公司を設立
平成17年11月	企業投資を中心としたコンサルティング及びマーケティングを行うことを目的に、FCパートナーズ(株)を設立
平成18年10月	ジャスダック証券取引所〔現：大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）〕に株式を上場
平成19年9月	不動産関連特定投資運用業を行うことを目的に、ファンドクリエーション・アール・エム(株)を設立
平成20年5月	ファンドクリエーション・アール・エム(株)が金融商品取引業（投資運用業）の登録を内閣総理大臣より受領
平成23年5月	本社を東京都千代田区麹町一丁目4番地に移転

3【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社9社により構成されており、ファンドの組成・管理・運用等を行うアセットマネジメント事業、不動産物件への投資、上場企業・未上場企業への投資、金融商品仲介業務等を行うインベストメントバンク事業を行っております。

それぞれの事業内容や当社と子会社及び関連会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります（平成23年11月30日現在）。



(注)

1. 出資関係



2. 取引関係

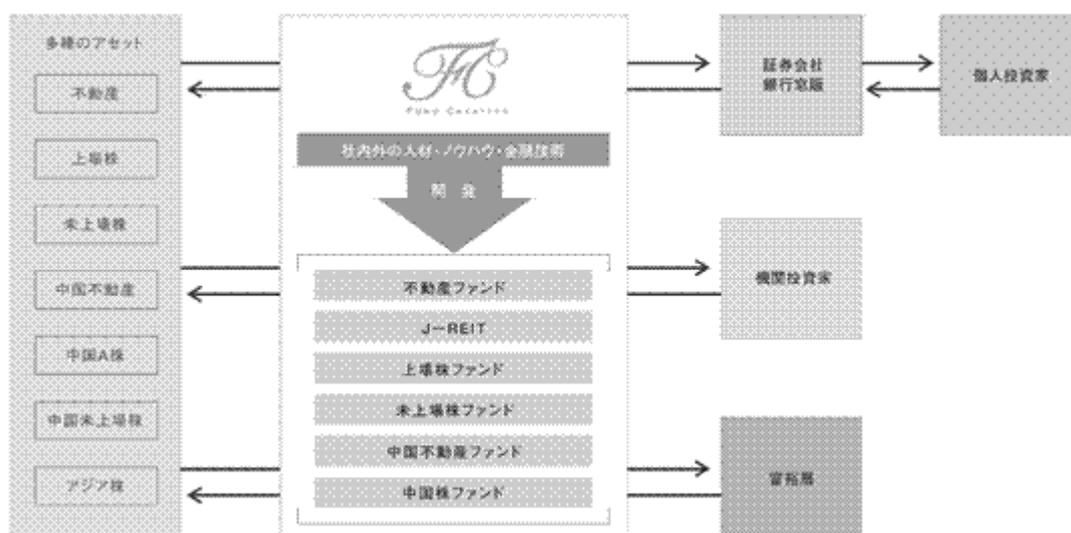


(1) アセットマネジメント事業

アセットマネジメント事業は、ファンド開発、不動産ファンド運用、証券ファンド運用に大別されます。

ファンド開発

当社グループでは、「投資家のニーズに立脚した魅力的なファンドの開発」を事業コンセプトに、日本の不動産・上場株・未上場株、中国の不動産・A株・未上場株、アジアの新興国株等の新しい投資対象を発掘すると同時に、個人投資家、富裕層、機関投資家等からの投資ニーズを汲み上げ、それらを当社グループの持つファンドに関するノウハウや金融技術と組み合わせることにより、様々なファンドを投資家に提供しています。



当社グループでは、開示制度の充実等の投資家から見た透明性の高さや、個人投資家からの投資の受け入れの容易さを重視し、組成するファンドの多くは公募型投資信託にしております。新規ファンドの組成にあたっては、ファンド開発部門が情報収集、企画、立案、組成支援等を行います。また、当社グループ外の弁護士・会計士・税理士等とのネットワークを活用し、法規制、税制等について検討を重ね、投資家にとって最適なストラクチャーを決定します。

不動産ファンド運用

当社グループでは、日本の不動産を収益源とした毎月分配型の外国投資信託を運用しております。当社グループの主力商品である「FCファンド-レジット不動産証券投資信託」(以下「レジット」といいます。) においては、グループ会社のファンドクリエーション・アール・エム(株)が金融商品取引法に基づく投資一任運用業者として適正な運用を行っております。

当社グループがアセットマネジメント契約を締結している特別目的会社（SPC）等及びFCレジデンシャル投資法人の取得資産の合計額（受託資産残高）は以下のとおりです。

回次	第1期 (平成21年11月期)			
	平成21年2月	平成21年5月	平成21年8月	平成21年11月
金額(百万円)	-	130,718	120,409	83,839

回次	第2期 (平成22年11月期)			
	平成22年2月	平成22年5月	平成22年8月	平成22年11月
金額(百万円)	80,169	74,057	69,041	60,464

回次	第3期 (平成23年11月期)			
	平成23年2月	平成23年5月	平成23年8月	平成23年11月
金額(百万円)	59,609	59,609	34,963	34,963

証券ファンド運用

当社グループにおいて管理・運用する証券ファンドは、中国等アジア株式に投資する外国投資信託、主に日本の未上場株式に投資する外国投資信託等です。

アセットマネジメント事業における売上高（営業収益）の内訳

アセットマネジメント事業における主な売上高（営業収益）は、以下のとおりであります。それぞれのファンドのスキームによって得られる収益の構成、料率が異なっております。

報酬名	報酬の内容
管理報酬	外国投資信託の管理・運用業務に関する報酬で、ファンド毎に一定の料率が定められています。
アキュジションフィー	特別目的会社（SPC）等が不動産等を取得する際に当社がSPCに提供する役務にかかる報酬です。対象不動産等の取得価額に一定料率を乗じた金額で、アセットマネジメント契約に基づき発生します。
ディスポーザルフィー	特別目的会社（SPC）等が不動産等を売却する際に当社がSPCに提供する役務にかかる報酬です。対象不動産等の売却価額に一定料率を乗じた金額で、アセットマネジメント契約に基づき発生します。
アセットマネジメントフィー	特別目的会社（SPC）等が所有する不動産等の管理・保全に関する報酬です。特別目的会社（SPC）等の保有資産額に一定料率を乗じた金額で、アセットマネジメント契約に基づき発生します。

ファンド

当社グループが管理・運用を行う主なファンドの概要は以下のとおりです。

不動産ファンド

ファンド名	主な投資対象	設定	特徴
FCファンド - レジット不動産証券投資信託	日本の居住系不動産等を収益源とする社債等	平成15年11月 平成23年11月	<ol style="list-style-type: none"> 日本の不動産を収益源とする、公募の円建て契約型外国投資信託。 原則として、不動産収益の総額から費用の総額を差し引いた額を毎月分配する。 東京都心のレジデンシャル物件を含む居住系賃貸物件等の不動産を主な収益の源泉とした社債等に投資する。 ブラジルリアルクラスと豪ドルクラスでは、為替ヘッジプレミアムと為替差益の獲得が期待される。
FCレジデンシャル投資法人 1	日本の居住系不動産	平成17年10月 (東京証券取引所上場)	<ol style="list-style-type: none"> 需要の二極化を予測し、一等地に所在する居住系不動産への集中投資を目標とする。 当社グループの総合的な運用技術を活用し、戦略的な運用を目指す。

- 1.平成23年8月15日付で当社の子会社でFCレジデンシャル投資法人の資産運用を行うファンドクリエーション不動産投信(株)の全株式を外部売却したことに伴い、投資法人の運用資産残高を当社グループのファンド運用資産残高の対象外としております。

証券ファンド(外国投資信託)

ファンド名	主な投資対象	設定	特徴
フェイム・アイザワアジア中小型株ファンド 2.	外国上場株式	平成16年2月	<ol style="list-style-type: none"> 合理的なレベルのリスクで、株式及び株式関連証券、債券、現金並びに現金等価物に投資し、収益及び長期的な元本の値上がりを得ることを目的とする。 主として、以下の地域において事業を設立または遂行する中小型企業が発行する上場株式等に投資する。 シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、香港、台湾、韓国
申銀萬國・アイザワ中国A株ファンド2号・3号 3.	外国上場株式	平成16年9月 平成19年4月	中国の上海証券取引所及び深?証券取引所に上場されている中国A株に間接的に投資することによって長期的な元本の成長と収益を追求する。
FC J - トラスト上場期待日本株ファンド	国内未上場株式・上場株式を投資対象としたリミテッドパートナーシップ	平成17年5月	<ol style="list-style-type: none"> 複数のリミテッド・パートナーシップへの出資を通じて、主に未公開株式及び上場株式へ投資する。 各リミテッド・パートナーシップにおけるジェネラル・パートナーは、投資アドバイザーとして案件発掘能力に優れたベンチャーキャピタルを任命する。ジェネラル・パートナーは各ベンチャーキャピタルの助言を受け、投資を実行する。
FC C 上場期待中国株ファンド	外国未上場株式・外国上場株式を投資対象としたリミテッドパートナーシップ	平成17年7月	将来の株式上場が期待できる中国関連企業が発行する未上場株式等への間接的な投資を通じて、中長期的なキャピタルゲインを追求する。

ファンド名	主な投資対象	設定	特徴
FC Tトラスト - 海通 - アイザワ 好配当利回り中国株ファンド	外国上場株式	平成17年10月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香港や中国本土の証券取引所またはその他の取引所に上場する中国関連企業が発行する株式及び株式関連証券に投資する。 2. 定期的に配当を支払うと予想される中国関連企業の株式等から、優秀な経営陣や良好な収益性、株主価値の重視、優れた企業統治などの点を勘案し、銘柄の選別を行い、好利回りとなるようなポートフォリオを構築する。 3. 魅力的な分配利回りを目指し、ポートフォリオ全体の平均予想配当利回りと予想されるファンドの費用等を勘案しながら、毎月分配することを目指す。
フェイム - アイザワトラスト ベトナムファンド	外国上場株式	平成18年10月	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホーチミン・ハノイ証券取引所上場株式及びベトナム国内の店頭登録株式等に投資し、長期的なキャピタルゲインを追求する。 2. ベトナム国外の取引所に上場しているベトナム関連企業が発行する株式及び株式関連証券にも投資する。
フィリップ - アイザワトラスト タイファンド	外国上場株式	平成19年 1月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主にタイで設立されまたは事業を行っている企業により発行された上場株式、無議決権預託証券(NVDR)等に投資する。 2. 優れた中・長期のパフォーマンスの達成を目的とし、主にグロース(成長)投資の手法を採用する。 3. 株価や経営実績、あるいは成長において極端な銘柄には集中投資せず、潜在的に成長が見込まれる企業の発行する証券等にバランス良く投資を行う。
MF MCP アイザワ トラスト フィリピンファンド	外国上場株式	平成19年 5月	主として、フィリピンで設立された企業またはフィリピン関連企業によって発行された株式および株式関連証券等に投資し、収益および長期的な元本の増加を追求する。
FC Tトラスト - 海通 - アイザワ 中国ナンバーワンファンド	外国上場株式	平成19年 6月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主に香港、上海及び深? の証券取引所に上場している、大手中国企業が発行する株式に投資する。 2. 大手中国企業の中には、今後の中国の経済成長につれて国際経済の舞台において重要な役割を担う企業があるものと考えられる。こうした企業を発掘し、投資することで中長期的に安定したキャピタルゲインを獲得することを目的とする。
フィリップ - アイザワ トラスト インドネシアファンド	外国上場株式	平成20年 1月	<ol style="list-style-type: none"> 1. インドネシア関連の株式および株式関連証券に分散投資することにより、中・長期における元本の成長を実現することを目的とする。 2. グロース投資の手法を採用し、従来の考え方にとらわれることなく、継続的に新たなトレンド、割安成長期待株および割安企業を探し、投資を試みる。インドネシア経済の高まる自由化の恩恵を受ける企業に出資するよう努める。

ファンド名	主な投資対象	設定	特徴
FC Tトラスト - 海通 - アイザワ 中国国策ファンド	外国上場株式	平成20年 5月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国政府の政策および計画の変更から利益を受けることが予想される上場中国企業に投資することにより、中長期的なキャピタルゲインを追求する。 2. 香港上場H株、レッド・チップ、またB株のみならず、人民元で取引されるA株にも投資する。
FC Sトラスト アジア資源株ファンド 4.	外国上場株式	平成20年 6月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主に天然資源の開発、生産、加工、精製、輸送、貯蔵および販売に関する事業を行っている上場企業に投資することにより、長期的なキャピタル・ゲインを得ることを目的とする。 2. 主に、アジア太平洋地域における証券取引所に上場されている企業に投資する。
FC Sトラスト - ブラザコモディティファンド - [ロジャーズ国際商品指数 [®]] 5.	商品先物取引と米国財務省証券等の有価証券	平成20年 9月	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロジャーズ国際商品指数[®] (RICI[®])の動きに概ね連動(手数料および費用控除前)するリターンを生み出すことを目的とする。 2. ファンドの運用資金の概ね70%は、信用力が高く、流動性の豊富な米国財務省証券(T-Bill)等で運用する予定。

2. フェイム - アイザワ アジア中小型株ファンドは平成23年 9月に償還しました。

3. 申銀萬國・アイザワ 中国A株ファンド 2号は平成23年 5月に償還しました。

4. FC Sトラスト アジア資源株ファンドは平成23年 9月に償還しました。

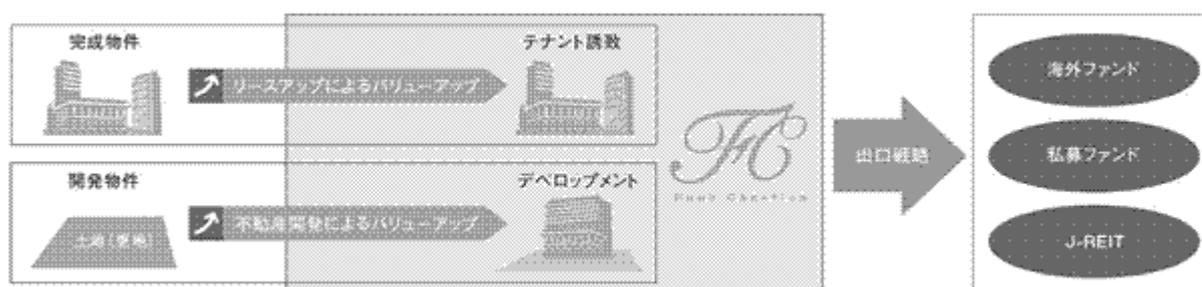
5. FC Sトラスト - ブラザコモディティファンド - [ロジャーズ国際商品指数[®]]は平成23年12月に償還しました。

(2) インベストメントバンク事業

インベストメントバンク事業においては、不動産投資を行う不動産投資等部門と、株式等の証券への投資や金融商品仲介業を行う証券投資等部門があります。

不動産投資等部門

不動産投資等部門においては、原則として、投資対象不動産等を所有する特別目的会社(SPC)等に対して匿名組合出資を行うことにより、当社グループにかかるリスクを出資額に限定しながらリースアップ等による不動産のバリュアアップを行います。また、不動産開発においても、原則として、投資対象不動産等を所有する特別目的会社(SPC)等に対して匿名組合出資を行うことにより当社にかかるリスクを出資額に限定しております。なお、不動産投資等部門においては、バリュアアップ及び開発が完了した不動産等を譲渡することにより売却益を得ます。



証券投資等部門

証券投資等部門においては、「中堅上場企業、優良未上場企業をターゲットとした、高度な金融ソリューションの提供」を事業コンセプトに、上場企業、未上場企業に対し金融ソリューションを提供し、その対価として、株式、新株予約権への投資機会及びコンサルティングフィーを得ております。また、(株)FCインベストメント・アドバイザーズでは、藍澤証券(株)及び日産センチュリー証券(株)から委託を受けて金融商品仲介業務を行っております。(株)FCインベストメント・アドバイザーズでは、上場株式等の有価証券の売買の媒介及び当社グループにおいて組成した投資信託の募集の取扱い等を行っており、取次ぎ実績に応じて仲介手数料が計上されております。金融商品仲介業においては、金融法人、事業法人、その他法人及び富裕層を顧客としております。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容 (注) 1 .	議決権の所有割合(%) (注) 5 .	関係内容
(連結子会社) ㈱ファンドクリエーション (注) 2 . 6	東京都 千代田区	100	アセットマネジメント 事業 インベストメントバン ク事業	100.0	(役員の兼務) 7人 (取引関係) 経営指導料の受取
FC Investment Ltd.	イギリス領 ケイマン諸島	50	アセットマネジメント 事業 (ファンド運営管理)	100.0	(役員の兼務) - (取引関係) -
上海創喜投資諮詢有限 公司	中華人民共和国 上海市	140 (千米ドル)	アセットマネジメント 事業 (投資コンサルティング業)	100.0 (100.0)	(役員の兼務) 3人 (取引関係) -
ファンドクリエーショ ン・アール・エム㈱ (注) 2 . 6	東京都 千代田区	200	アセットマネジメント 事業 (不動産関連特定投資 運用業)	100.0	(役員の兼務) 2人 (取引関係) 経営指導料の受取
F C パートナーズ㈱	東京都 千代田区	30	インベストメントバン ク事業 (証券投資業)	100.0	(役員の兼務) 4人 (取引関係) -
㈱F C インベストメン ト・アドバイザーズ	東京都 中央区	30	インベストメントバン ク事業 (金融商品仲介業)	70.0	(役員の兼務) 2人 (取引関係) 経営指導料の受取
セドル・プロパティ ー(合) (注) 2 . 3 . 6	東京都 中央区	0	インベストメントバン ク事業 (不動産流動化業)	-	(役員の兼務) - (取引関係) -
ペトリュス・プロパ ティ ー(合) (注) 2 . 3	東京都 中央区	0	インベストメントバン ク事業 (不動産流動化業)	-	(役員の兼務) - (取引関係) -
F C - S T ファンド投 資事業有限責任組合 (注) 2 . 4	東京都 千代田区	29	インベストメントバン ク事業 (証券投資業)	33.3 (33.3)	(役員の兼務) - (取引関係) -

(注) 1 . 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。
3. 当社は、特別目的会社（SPC）等に対する議決権を有しておりませんが、匿名組合出資を行うことで特別目的会社（SPC）等が有する資産及び負債から生ずる利益の大部分を実質的に当社の子会社である㈱ファンドクリエーションが享受するため連結対象としております。
4. 当社は、FC-ST投資事業有限責任組合に対する議決権の過半を有しておりませんが、当社の子会社であります㈱ファンドクリエーションが無限責任組合員としての地位を有しているため連結対象としております。
5. 議決権の所有割合の下段（ ）は、間接所有割合で、上段数字に含まれております。
6. ㈱ファンドクリエーション、ファンドクリエーション・アール・エム㈱及びセドル・プロパティ－（同）については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等（連結会社相互間の内部取引・債権債務相殺前）の内容は以下のとおりであります。

㈱ファンドクリエーション

売上高	366百万円
経常損失()	69百万円
当期純損失()	32百万円
純資産額	1,150百万円
総資産額	2,759百万円

ファンドクリエーション・アール・エム㈱

売上高	177百万円
経常利益	25百万円
当期純利益	8百万円
純資産額	238百万円
総資産額	282百万円

セドル・プロパティ－（合）

売上高	195百万円
経常利益	36百万円
当期純利益	0百万円
純資産額	0百万円
総資産額	3,116百万円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年11月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
アセットマネジメント事業	21(2)
インベストメントバンク事業	4(-)
全社(共通)	10(-)
合計	35(2)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

2. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

3. ファンドクリエーション不動産投信(株)(現:いちごリートマネジメント(株))の発行済株式の全株式を平成23年8月15日付でいちごグループホールディングス(株)に譲渡し、当社の連結対象外となったことに伴い、7名減少いたしました。

(2) 提出会社の状況

平成23年11月30日現在

従業員数(人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)
5	44歳6ヶ月	2年3ヶ月	1,373,152

セグメントの名称	従業員数(人)
アセットマネジメント事業	-(-)
インベストメントバンク事業	-(-)
全社(共通)	5(-)
合計	5(-)

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 平均年間給与は、提出会社からの人件費負担額であり、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 従業員数は、当社グループ会社からの兼務者を記載しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 経営成績に関する分析

当連結会計年度(平成22年12月1日～平成23年11月30日)における国内経済は生産拡大や輸出の下げ止まりの動きがみられ、緩やかながらも自律回復へ移行する兆しがありましたが、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響による電力供給の制限やサプライチェーンの寸断などにより経済活動の停滞を余儀なくされました。その後、サプライチェーンの急速な回復や海外経済の緩やかな回復にも後押しされ、持ち直しの動きが見られたものの、米国経済の減速や欧州の債務問題など世界経済に減速懸念が生じ、先行き不透明な状況のまま推移しました。

不動産ファンド業界におきましては、東日本大震災の影響による投資マインドの冷え込みからマーケット動向を見極めようとする投資家が多く、国内不動産マーケットは厳しい状況が続いておりましたが、一方でREITを中心に優良なレジデンシャル物件取得の動きもみられました。株式市場におきましては、円高が高止まり水準で推移する中、欧州の債務危機の影響もあり、軟調な値動きが続きました。

こうした状況下、当社グループは、新たな収益源を確保すべく、潜在的な成長力を秘めたアジア諸国でのビジネス展開を見据え、韓国のNAU IB CAPITALや現代証券、中国のSou Fun Holdingsやフォーチュンリンクといったアジア企業との業務提携を推し進めました。フォーチュンリンクとは中国における合弁会社の共同設立に向けた準備を行っており、同社にて中国マーケット進出を狙う日本企業等を投資対象としたファンドの組成を予定しております。また、不動産事業におきましては、当社グループが匿名組合出資を行っている特別目的会社(SPC)等が保有する不動産物件をリーシングによるバリュアアップを行ったのち、匿名組合出資持分の譲渡を実行したほか、「FCファンド-レジット不動産証券投資信託」(以下「レジット」といいます。)の残高の積み上げに向け、新たな部署を設置するなど営業力を強化いたしました。

アセットマネジメント事業におきましては、当連結会計年度末におけるファンド運用資産残高は、ファンドの償還や解約等により170億円となりました。また、不動産等の受託資産残高は、FCレジデンシャル投資法人の資産運用を行うファンドクリエーション不動産投信株の全株式の売却に伴い、FCレジデンシャル投資法人の取得資産を受託資産残高の対象外としたこと等により349億円となりました。一方、インベストメントバンク事業のうち、不動産投資等部門は当社グループが、不動産等を保有する特別目的会社(SPC)等に対して行っている匿名組合出資持分を譲渡したほか、保有物件からの家賃収入を計上いたしました。また、証券投資等部門では金融商品仲介業務手数料等を計上いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高842百万円(前年同期比54.7%減)、営業利益29百万円(前年同期の営業損失は184百万円)、経常損失31百万円(前年同期の経常損失は121百万円)、当期純利益66百万円(前年同期の当期純損失は157百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<アセットマネジメント事業>

当連結会計年度におけるアセットマネジメント事業は、ファンドクリエーション・アール・エム(株)におけるレジットの組入れ物件の売却に伴うディスポーザルフィー36百万円、不動産ファンドからのアセットマネジメントフィー99百万円、ファンドクリエーション不動産投信株におけるFCレジデンシャル投資法人の運用報酬84百万円、不動産物件仲介手数料31百万円、FC Investment Ltd.におけるファンドの管理報酬40百万円等を計上いたしました。この結果、アセットマネジメント事業は、売上高366百万円(前年同期比43.4%減)、営業利益0百万円(前年同期の営業利益は112百万円)となりました。

<インベストメントバンク事業>

当連結会計年度におけるインベストメントバンク事業は、不動産投資等部門では、当社グループが匿名組合出資を行っている特別目的会社(SPC)等が所有する不動産物件からの不動産家賃収入352百万円、特別目的会社(SPC)の匿名組合出資持分の譲渡利益等105百万円を計上いたしました。証券投資等部門では、(株)FCインベストメント・アドバイザーズにおいて金融商品仲介業による収益13百万円、FCパートナーズ(株)の助言報酬4百万円等を計上いたしました。この結果、インベストメントバンク事業は、売上高476百万円(前年同期比60.7%減)、営業利益194百万円(前年同期の営業損失は98百万円)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)は、前連結会計年度末に比べ175百万円減少し、927百万円になりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用された資金は、135百万円となりました。税金等調整前当期純利益を110百万円計上しましたが、その中には関係会社株式の売却益216百万円が含まれていることが主因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって獲得された資金は、135百万円となりました。主な要因は、関係会社株式の売却収入が273百万円、担保解除による定期預金受入100百万円及び事務所敷金の返還受入104百万円があった一方、匿名組合出資持分取得による支出369百万円があったこと等によります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって使用された資金は、173百万円となりました。主な要因は、借入金弁済による支出171百万円等があったことによります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績、仕入実績及び受注実績

当社グループの提供するサービスは生産・仕入・受注活動を伴わないため、記載を省略しております。

(2) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)	前年同期比(%)
アセットマネジメント事業(百万円)	366	43.4
インベストメントバンク事業(百万円)	476	60.7
合計(百万円)	842	54.7

(注) 1. セグメント間の取引は相殺しております。

2. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)		当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)	
	金額 (百万円)	割合(%)	金額 (百万円)	割合(%)
FCレジデンシャル投資法人	1,103	59.3	84	10.1

3. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) ファンド資産残高の状況

外国投資信託(不動産ファンド)の運用資産残高

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)				当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)			
	2月 (百万円)	5月 (百万円)	8月 (百万円)	11月 (百万円)	2月 (百万円)	5月 (百万円)	8月 (百万円)	11月 (百万円)
レジット (注) 1.	7,448	7,210	7,014	7,545	7,497	7,274	6,893	6,498
ジェイグランド (注) 2.	16	-	-	-	-	-	-	-
チャイナ1号 (注) 3.	200	-	-	-	-	-	-	-
チャイナ2号 (注) 4.	148	-	-	-	-	-	-	-
チャイナ3号 (注) 5.	498	-	-	-	-	-	-	-
合計	8,311	7,210	7,014	7,545	7,497	7,274	6,893	6,498

(注) 1. FCファンド - レジット不動産証券投資信託(「レジット」)は平成15年11月に運用を開始しました。平成22年2月度から平成23年5月度まで「レジット」クラスB受益証券、平成22年11月度より「レジット」クラスC受益証券、平成23年11月度より「レジット」ブラジルリアルクラス受益証券及び豪ドルクラス受益証券の運用資産残高を含めております。

2. FCトラスト - ジェイ - グランド不動産証券投資信託(「ジェイグランド」)は平成16年12月に運用を開始し、平成22年4月に償還しました。

3. FCチャイナトラスト - チャイナエクスプレス中国不動産ファンド1号(「チャイナ1号」)は平成16年12月に運用を開始し、平成22年4月に償還しました。

4. FCチャイナトラスト - チャイナエクスプレス中国不動産ファンド2号(「チャイナ2号」)は平成17年2月に運用を開始し、平成22年4月に償還しました。

5. FCチャイナトラスト - チャイナエクスプレス中国不動産ファンド3号(「チャイナ3号」)は平成17年12月に運用を開始し、平成22年4月に償還しました。

投資法人(不動産ファンド)の運用資産残高

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)				当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)			
	2月 (百万円)	5月 (百万円)	8月 (百万円)	11月 (百万円)	2月 (百万円)	5月 (百万円)	8月 (百万円)	11月 (百万円)
FCレジデンシャル投資法人(注)	14,928	14,928	14,928	14,928	14,928	14,928	-	-
合計	14,928	14,928	14,928	14,928	14,928	14,928	-	-

(注) 運用資産残高は、FCレジデンシャル投資法人における投資主から払込を受けた出資総額を記載しております。なお、平成23年8月15日付で当社の子会社でFCレジデンシャル投資法人の資産運用を行うファンドクリエーション不動産投信(株)の全株式を外部売却したことに伴い、投資法人の運用資産残高を当社グループのファンド運用資産残高の対象外としております。

外国投資信託（証券ファンド）の運用資産残高

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)				当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)			
	2月 (百万円)	5月 (百万円)	8月 (百万円)	11月 (百万円)	2月 (百万円)	5月 (百万円)	8月 (百万円)	11月 (百万円)
上場期待日本株 (注) 1 .	312	322	324	347	332	310	288	325
好配当利回り中国株 (注) 2 .	12,760	11,805	9,882	7,893	5,675	4,602	2,366	1,633
アジア中小型株 (注) 3 . 16.	410	402	388	409	363	352	272	-
中国A株 2号 (注) 4 . 16.	399	337	301	283	262	216	-	-
中国A株 3号 (注) 5 . 16.	1,738	1,428	1,495	1,552	1,419	1,130	989	767
上場期待中国株A (注) 6 . 16.	620	515	454	443	414	417	346	286
上場期待中国株B (注) 7 . 16.	2,184	1,942	1,812	1,807	1,584	1,532	1,208	966
ベトナム (注) 8 . 16.	4,937	4,997	4,240	4,110	3,722	3,337	3,098	2,768
タイ (注) 9 . 16.	1,675	1,648	1,816	1,953	1,750	1,808	1,676	1,445
フィリピン (注) 10 . 16.	375	391	380	404	338	354	318	263
中国ナンバーワン (注) 11 . 16.	2,170	1,908	1,733	1,671	1,439	1,407	1,065	839
インドネシア (注) 12 . 16.	928	848	882	949	813	808	687	623
中国国策 (注) 13 . 16.	567	508	444	402	321	303	230	174
アジア資源株 (注) 14 . 16.	317	220	196	179	180	166	106	-
コモディティ (注) 15 . 16.	438	378	307	314	326	295	236	161
私募投資信託	1,100	931	577	454	483	408	336	262
合計	30,937	28,590	25,238	23,177	19,428	17,453	13,229	10,519

- (注) 1 . FC J - トラスト - 上場期待日本株ファンド(「上場期待日本株」)は平成17年4月に運用を開始しました。
2 . FC Tトラスト - 大福 - アイザワ 好配当利回り中国株ファンド(「好配当利回り中国株」)は平成17年10月に運用を開始しました。(平成23年1月1日よりFC Tトラスト - 海通 - アイザワ 好配当利回り中国株ファンドに名称を変更しました。)
3 . フェイム - アイザワ アジア中小型株ファンド(「アジア中小型株」)は平成16年2月に運用を開始し、平成23年9月に償還しました。
4 . 申銀萬國・アイザワ中国A株ファンド2号(「中国A株2号」)は平成16年9月に運用を開始し、平成23年5月に償還しました。
5 . 申銀萬國・アイザワ中国A株ファンド3号(「中国A株3号」)は平成19年4月に運用を開始しました。
6 . FC C - 申銀萬國・アイザワ 上場期待中国株ファンド(クラスA受益証券)(「上場期待中国株A」)は平成17年7月に運用を開始しました。(平成20年12月1日よりFC C 上場期待中国株ファンド(クラスA受益証券)に名称を変更しました。)

7. FC C - 申銀萬國・アイザワ 上場期待中国株ファンド(クラスB受益証券)(「上場期待中国株B」)は平成19年2月に運用を開始しました。(平成20年12月1日よりFC C 上場期待中国株ファンド(クラスB受益証券)に名称を変更しました。)
8. フェイム - アイザワ トラスト ベトナムファンド(「ベトナム」)は平成18年9月に運用を開始しました。
9. フィリップ - アイザワ トラスト タイファンド(「タイ」)は平成19年1月に運用を開始しました。
10. MFMCP - アイザワ トラスト フィリピンファンド(「フィリピン」)は平成19年5月に運用を開始しました。
11. FC T トラスト - 大福 - アイザワ 中国ナンバーワンファンド(「中国ナンバーワン」)は平成19年6月に運用を開始しました。(平成23年1月1日よりFC T トラスト - 海通 - アイザワ 中国ナンバーワンファンドに名称を変更しました。)
12. フィリップ - アイザワ トラスト インドネシアファンド(「インドネシア」)は平成20年1月に運用を開始しました。
13. FC T トラスト - 大福 中国国策ファンド(「中国国策」)は平成20年5月に運用を開始しました。(平成23年1月1日よりFC T トラスト - 海通 - アイザワ 中国国策ファンドに名称を変更しました。)
14. FC S トラスト - 申銀萬國 アジア資源株ファンド(「アジア資源株」)は平成20年6月に運用を開始し、平成23年9月に償還しました。(平成20年12月1日よりFC S トラスト アジア資源株ファンドに名称を変更しました。)
15. FC S トラスト - ブラザコモディティファンド - [ロジャーズ国際商品指数[®]](「コモディティ」)は平成20年9月に運用を開始しました。
16. 運用資産が米ドル建てで算出されているファンド(アジア中小型株、中国A株2号、中国A株3号、上場期待中国株A、上場期待中国株B、ベトナム、タイ、フィリピン、中国ナンバーワン、インドネシア、中国国策、アジア資源株、コモディティ)は月末の為替レート(TTM)を使用しております。

平成22年2月	平成22年5月	平成22年8月	平成22年11月
89.43円	91.31円	84.56円	84.27円
平成23年2月	平成23年5月	平成23年8月	平成23年11月
81.71円	80.88円	76.74円	78.13円

(4) アセットマネジメント事業に関する報酬

アキュジションフィー、ディスポーザルフィー等

前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
270百万円	68百万円

アセットマネジメントフィー等

前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
377百万円	297百万円

3【対処すべき課題】

(1) 経営の合理化・効率化

当社グループでは、厳しい金融・不動産市況の下、経営の合理化・効率化を進めてまいりましたが、今後も継続して更なる経営の合理化・効率化に努め、高い収益性を生み出す組織体制を構築してまいります。

(2) 収益力の強化

ファンド運用資産残高から派生する安定した固定収益確保のため、新しい投資商品あるいは投資地域を対象としたファンドを組成すること等により、ファンド運用資産残高の積み上げに取り組んでまいります。既存ファンドにおきましても、営業部門の強化を図るとともに販売会社・運用会社との連携を密にすることで残高の積み上げを図ってまいります。また、インベストメントバンク事業におきましては、ソーシングを強化し優良な不動産物件を取得することで更なる収益機会を目指してまいります。

(3) アジアビジネスの推進

不動産分野におきましては、業務提携先である中国の不動産ポータルサイト運営会社に対し、日本の優良な不動産物件を紹介するため、国内不動産会社との協力体制を構築し、情報交換を密に行ってまいります。企業投資分野におきましては、業務提携先である中国のベンチャー企業投資会社と設立した合併会社を拠点に、日本の優良な中堅企業の中国市場進出を支援するファンドを組成してまいります。優良な企業発掘のため、人材採用と国内外のネットワークの強化に取り組んでまいります。

4【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業の状況及び経理の状況などに関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、当社グループとして必ずしも事業上のリスクと考えていない事項につきましても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ですが、本株式に関する投資判断は、本項及び本項以外の記載事項を慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は、別段の記載のない限り、本有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

1. 当社グループの事業特有のリスクについて

当社グループは、様々なアセットを投資対象とする投資信託等を組成し、管理・運用するアセットマネジメント事業、自己の勘定によって不動産や企業等に投資するインベストメントバンク事業を展開しております。それぞれの事業特有のリスク要因として、主として以下の事項が想定されます。

(1) アセットマネジメント事業

市況の動向について

当社グループでは、「投資家のニーズに立脚した魅力的なファンドの開発」を事業コンセプトに、新しい投資対象、新しい事業機会を発掘し、金融技術や社内外のプロフェッショナルな人材及びノウハウを活用し、様々なファンドを投資家に提供しております。

当社グループのアセットマネジメント事業においては、特定の投資対象に限定せず、投資家のニーズに合った新たな金融商品の開発に取り組んでいるため、不動産市場や株式市場など、特定の市場動向に左右されない事業展開を考えております。しかしながら、現状での当社グループのアセットマネジメント事業における売上高は不動産ファンドに大きく依存しており、不動産市場において、当社グループに悪影響を及ぼす市場動向がみられた場合や急激な変動がみられた場合には、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、これまでに、国内外の不動産、株式及び未上場株式等を投資対象とするファンドを組成し、管理・運用を行ってまいりましたが、今後も投資対象を幅広く選定し、特定の市場動向から受ける影響を低く抑えていく方針であります。

藍澤證券株式会社との取引関係について

当社グループが管理・運用する各ファンドの募集について、平成23年11月期における募集額は藍澤證券(株)が過半を占めております。今後につきましては、更なる販路の拡大に努める一方で、引き続き同社との関係の緊密化も図っていくことから、藍澤證券(株)の募集状況の如何によっては、当社グループが管理・運用するファンドの募集動向に影響を及ぼす可能性があります。また、何らかの要因により同社の当社グループとの関係に関する方針が変更され、同社との取引が減少した場合、あるいは同社との取引関係が継続できなくなった場合には、当社グループの事業活動及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

特定のリポートへの依存について

当社グループでは、平成23年11月期における「レジット」から派生的に発生する報酬等のアセットマネジメント事業に占める割合は68.4%となっております。今後につきましては、引き続き収益の分散化に努める一方で、「レジット」の運用資産の増大に努めてまいります。しかしながら、「レジット」の募集額が計画通りに進まなかった場合には、当社グループにおけるアセットマネジメント事業の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

一時的な収益への依存について

当社グループの主力商品である「レジット」から派生的に発生する報酬等にはアキュイジションフィー、ディスプレイフィー等が含まれます。アキュイジションフィー、ディスプレイフィー等は不動産等を所有する特別目的会社（SPC）等が不動産等を取得又は売却する際に発生する一時的な報酬であり、継続的には発生しません。従って、各SPC等による不動産等の取得や売却が進まなかった場合には、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) インベストメントバンク事業

不動産投資等部門について

不動産投資等部門においては、主に匿名組合出資を通じ、リスクを出資額に限定しながら不動産等への投資を行っておりますが、当該投資には、物件における権利、地盤、地質、構造等に関して欠陥・瑕疵等のリスクがある場合や、不動産市況の変化、地震等の不可抗力を起因として期待通りのリターンを得られない場合には、投資資金が回収できない可能性があります。また、開発型不動産投資は、物件の建設の途中で環境有害物質、遺跡、爆発物等が発見された場合、さらに構造計算書偽装事件を契機とした法規制の強化等が要因となり、工期が長期化し物件の完成に遅れが生じる場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

さらに、当社グループの不動産投資事業における不動産物件の売却が、不動産市況の変化や売却先との交渉等の要因により想定どおり進まなかった場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

証券投資等部門について

証券投資等部門においては、「中堅上場企業、優良未上場企業をターゲットとした、高度な金融ソリューションの提供」を事業コンセプトに、上場企業、未上場企業等に対する投資を行っております。その際、成功報酬としての意味合いを持たせるため、対価として株式及び新株予約権を得るとともに、コンサルティングサービスを提供することによって、成功の度合いを高めるよう努めております。しかし、必ずしも当社グループが想定したリターンを得られる保証はなく、株式市場の動向等によっては、コンサルティングサービスにかかるコストのほか、有償で株式等を得た場合にはその取得コストが当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループが投資する未上場企業において、株式公開準備の進捗状況等により株式公開時期が想定どおりでなかった場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

金融商品仲介業について

当社グループが行う事業で投資家と直接の接点を持つ業務は、金融商品仲介業のみです。一般に、金融商品仲介業を行う事業者は、当該事業者が営む本業の顧客に対し付加的なサービスとして有価証券の売買の仲介等を行っております。しかしながら、当社グループの行う金融商品仲介業においては、多くの機関投資家及び個人投資家とのコネクションを活かし、それら機関投資家及び個人投資家を顧客とすることにより事業を行っております。

金融商品仲介業においては、直接顧客と接することから法令の遵守に特に留意する必要があり、不測の事態により法令を遵守できなかった場合には、当社グループの信用を損ない、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 当社グループの業績推移等について

当社グループは、平成18年11月期からインベストメントバンク事業を展開したうえ、昨今の世界的な金融危機や市況悪化の影響を受けて、売上高の構成内容、構成比率、利益率が大きく変化しております。したがって、過年度の財政状態や経営成績は、今後の当社グループの業績を判断するのに不十分な面があります。

なお、最近の連結業績等の概要は下表のとおりとなっており、平成19年11月期及び平成20年11月期については、単体及び連結の業績は㈱ファンドクリエーションの数値であります。

また、セグメントの売上高及び営業利益については、「4. 連結財務諸表」の「注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

	平成19年 11月期	平成20年 11月期	平成21年 11月期	平成22年 11月期	平成23年 11月期
(連結)					
売上高(百万円)	14,562	3,407	704	1,859	842
経常利益(損失は) (百万円)	1,073	2,733	319	121	31
当期純利益(損失は) (百万円)	627	5,252	437	157	66
純資産額(百万円)	8,086	1,863	1,195	1,136	1,328
総資産額(百万円)	32,272	11,159	9,902	8,780	8,629
(単体)					
営業収益(百万円)	2,326	851	54	75	61
経常利益(損失は) (百万円)	1,304	2,178	2	0	9
当期純利益(損失は) (百万円)	642	5,218	1	4	117
純資産額(百万円)	6,949	1,610	1,479	1,588	1,852
総資産額(百万円)	9,405	4,038	2,082	2,190	2,374

平成21年11月期の会計期間は、平成21年5月1日から平成21年11月30日までであります。

3. 当社グループを取り巻く経営環境について

(1) 外部環境の変化について

当社グループでは、今後も投資家の資金運用ニーズは多様化し続けていくものと認識しております。それらの投資家のニーズに応えるため、今後も、新たなファンドの開発に取り組んでいく方針であります。当社グループの事業は、金利動向、不動産市況の変動及び法改正等、経済情勢や外部環境の影響を強く受ける面があり、また、当社グループが組成する金融商品に対する投資家のニーズが継続する保証はありません。当社グループを取り巻く外部環境あるいは投資家のニーズが変化し、当社グループが十分に対応できなかった場合には、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 競合について

アセットマネジメント事業について

当社グループが行うアセットマネジメント事業においては、大手銀行や金融商品取引業者を中核とした金融グループに属するアセットマネジメント会社、不動産等の特定の業務に特化したブティック型（専門型）のアセットマネジメント会社等が競合相手として挙げられます。その中で当社グループは、比較的小規模であり、それぞれ特色あるファンドに限定して取り組むとともに、必要に応じた人材の確保あるいは外部の専門家の活用によって、投資家のニーズに対応していく点に特色があるものと認識しております。しかしながら、当業界では、金融技術の発展や法改正を含む業界環境の変化のスピードが速く、環境変化に対する速やかな対応ができない場合には、当社グループの商品開発力等が他社に比べ劣後することにより、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

インベストメントバンク事業について

当社グループが行うインベストメントバンク事業は、不動産への投資や株式等の有価証券への投資が主な内容であり、競合・新規参入は多数挙げられます。当社グループでは、創業以来培ってきたソーシング力を活かし独自の案件を発掘してまいりましたが、今後さらに競合・新規参入等が増加し、案件の獲得競争が激化した場合には、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

4. 法的規制について

当社グループの主要事業であるアセットマネジメント事業は、各種の法令や業界団体による自主規制ルールによる規制を受けております。(株)ファンドクリエーションは信託受益権の仲介契約等に基づき、不動産信託受益権の販売活動の代行をしており、金融商品取引法第29条に基づく第二種金融商品取引業者の登録を受けております。また、(株)ファンドクリエーションは投資助言・代理業の登録も同様に受けており、ファンドクリエーション・アール・エム(株)においては、それぞれ投資運用業の登録を受けております。

以下の法的規制は、当社グループの業務を規制していたり、現在直接規制の対象となっていないとしても、今後の法改正や当社グループの業務範囲の拡大等によっては、新たに法的規制の根拠となる可能性があります。当社グループは現時点の規制に従って業務を遂行していますが、将来における法律、規則、政策、実務慣行、法改正及びその他の政策の変更並びにそれらによって発生する事態が、当社グループの業務運営や経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。しかし、どのような影響が発生しうるかについて、その種類・内容・程度等を予測することは困難であり、当社がコントロールしうるものではありません。

現時点で想定されるそれら法的規制には、以下のものが挙げられます。

- 「金融商品取引法」
- 「資産の流動化に関する法律」
- 「不動産特定共同事業法」
- 「投資信託及び投資法人に関する法律」
- 「宅地建物取引業法」
- 「貸金業法」
- 「出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律」
- 「金融商品の販売等に関する法律」
- 「信託業法」

当社グループが得ている主な許可・認可・登録は以下のとおりであり、これらの各種許認可等の取消事由等に該当する何らかの問題が発生した場合には、業務停止命令や許認可等の取消処分を受ける可能性があります。

関係法令	会社名	許認可(登録)番号	許可・認可・登録の別	有効期限
宅地建物取引業法	(株)ファンドクリエーション	東京都知事 (2)第83523号	免許	平成21.9.4～ 平成26.9.3
	ファンドクリエーション・アール・エム(株)	東京都知事 (1)第88602号	免許	平成19.12.15～ 平成24.12.14
	(有)ヘラクレス・プロパティ	東京都知事 (2)第86401号	免許	平成23.9.2～ 平成28.9.1
金融商品取引法 (金融商品取引業)	(株)ファンドクリエーション	関東財務局長 (金商)第998号	登録	-
	FCパートナーズ(株)	関東財務局長 (金商)第628号	登録	-
	ファンドクリエーション・アール・エム(株)	関東財務局長 (金商)第1867号	登録	-
金融商品取引法 (金融商品仲介業)	(株)FCインベストメント・アドバイザーズ	関東財務局長 (金仲)第38号	登録	-
貸金業法	(株)ファンドクリエーション	東京都知事 (3)第29293号	登録	平成23.4.27～ 平成26.4.27

5. 今後の事業展開について

世界的な金融危機の影響を受け、不動産市場・株式市場ではなお停滞感の強い状況が続いております。また、金融商品取引法により、ファンドの運用体制においては一層の透明性が求められております。このような事業環境の中、当社グループは今後、更に事業規模を拡大していくための重要課題として、(1) 経営の合理化・効率化(2) 収益力の強化(3) アジアビジネスの推進 の3つの事項を挙げ、取り組んでおります。

これらの具体的な方針については、「3. 対処すべき課題」に記載のとおりであります。これらの施策が有効に機能しない場合には、当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

6. 当社グループの事業体制について

(1) 小規模組織であることについて

当社グループは、平成23年11月30日現在、従業員38名(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者及び派遣社員含む)と少人数であり、内部管理体制も当該組織規模に応じたものとなっております。今後も、事業規模に応じた組織的な内部管理体制の充実を図る方針であります。必要となる人員が想定どおりに確保できず社内管理体制の充実が円滑に進まなかった場合には、当社グループの事業活動及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 当社グループ代表田島克洋への依存について

当社グループは、代表取締役田島克洋が平成14年12月に当社の子会社である㈱ファンドクリエーションを創業し、現在に至るまで当社グループの経営に携わり業容を拡大させてまいりました。また、顧客獲得のためのマーケティングや商品開発においても深く関与しており、その一方で、トップとして当社グループ全般を統轄しております。当社グループでは、同人への過度な依存を改善すべく事業体制を整備してまいりましたが、何らかの理由により同人が退職もしくは業務遂行が困難になる事態が生じた場合には、当社グループの事業活動及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

7. コンプライアンスの徹底について

当社グループが営む業務には様々な法的規制や業界団体による自主規制ルールがあり、これらを企業として遵守することのみならず、役職員一人一人に高いモラルが求められていると考えております。そのため、当社グループの役職員に対して、コンプライアンス研修等を通じてコンプライアンスの徹底を図っております。しかしながら、役職員による不祥事等が発生した場合には、当社グループのイメージ、レピュテーション(評判・風評)が失墜し、当社グループの事業活動及び経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループ内で何らかの問題が発生したり、管理・運用しているファンドの運用成績が悪化したりする等により、訴訟等を提起される可能性も否定できません。このような場合には、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

8. 人員の確保・育成について

当社グループが営む業務は、いずれも専門的知識と多くの経験を必要とし、それらのスキルを持つ人材の確保・育成が当社グループの経営上の重要な課題であると認識しております。当社グループでは、今後も事業の拡大に伴い、積極的に優秀な人材を採用し、育成していく方針であります。しかしながら、人材の確保・育成が想定どおりに円滑に進まなかった場合には、当社グループの今後の事業の拡大に影響を及ぼす可能性があります。また、人員の確保・育成が順調に行われた場合でも、採用費、人件費等のコスト負担が増加する場合も想定され、その場合には、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

9. たな卸資産の評価について

当社グループは、たな卸資産の時価が取得原価を下回る場合には、「棚卸資産の評価に関する会計基準」に則り評価損を計上することとしております。今後更なる市場環境の悪化などにより、たな卸資産の時価が一段と下落した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

10. 金利の上昇リスクについて

当社グループは、販売用不動産の取得資金、開発プロジェクト資金等の事業資金を主として金融機関からの借入により調達しているため、当社グループの総資産額に占める有利子負債の割合は平成23年11月末79.8%(平成22年11月末80.8%)と、借入比率の高い財務体質になっております。従いまして、金融情勢の変化により金利水準が上昇した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

11. 金融機関との取引について

当社グループの事業資金は主に金融機関からの借入により調達しており、取引金融機関とは良好な関係を構築しておりますが、一方で社債の発行等、資金調達の円滑化・多様化に努めております。しかしながら、何らかの理由により借入条件に抵触したりまたは制限が付与されるなどにより、既存の借入金の借換え、返済期日の延長及び新規調達等、計画どおりの資金調達ができなかった場合には、当社グループの資金繰り及び今後の事業の継続に重要な影響を及ぼす可能性があります。

12. 特別目的会社（SPC）等の利用について

当社グループは、特別目的会社（SPC）等に対して主に匿名組合出資を行っておりますが、特別目的会社（SPC）等の破綻等が発生した場合には、当社グループの業績は、原則として当社グループの出資金の範囲内で影響を受ける可能性があります。

13. 偶発債務の発生可能性について

インベストメントバンク事業における不動産投資等部門では、特別目的会社（SPC）等が不動産を担保として借入れた不動産取得資金及び開発プロジェクト資金に対して、当社の子会社である(株)ファンドクリエーションが一部当該債務の保証を行っております。特別目的会社（SPC）等に借入金債務等の債務不履行が生じた場合には、(株)ファンドクリエーションが金融機関又は建設会社に対して代位弁済を行うこととなりますが、特別目的会社（SPC）等に対する求償債権が未回収となる可能性は否定できません。何らかの事由によって、未回収が発生した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

14. 新株予約権について

当社は、当社グループの役職員及び外部協力者に対して新株予約権の付与を行っており、平成23年11月30日現在、新株予約権による潜在株式数は846,000株であります。また、平成21年7月31日に発行しました第1回無担保転換社債型新株予約権付社債に係る潜在株式数は2,380,952株（本新株予約権の行使請求に係る本社債の払込金額総額を250,000,000円、転換価額を当初転換価額の105円とした場合）であります。これらの潜在株式数と発行済株式数の合計40,294,323株に対する潜在株式数の割合は8.0%となります。

今後も、従業員のモチベーション向上等の理由から新株予約権の付与を行う可能性があり、既に付与された又は今後付与される新株予約権の権利行使が行われた場合には、当社株式価値の希薄化をもたらします。また、会社法施行日以降に付与されるストックオプションについては費用計上が義務付けられるため、今後のストックオプションを付与した場合には、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

15. 個人情報保護法について

当社グループは業務上、投資家や当社グループにてアセットマネジメントを行う物件の入居者の個人情報を保有しており、業容拡大に伴ってその取得・保有量も増加するものと予想されます。当社グループでは、内部の情報管理体制の強化により個人情報保護に注力しておりますが、不測の事態により個人情報の漏洩等があった場合には、当社グループへの損害賠償の請求や信用及びレピュテーションが低下し、事業活動及び経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

16. システムトラブル等について

当社グループは、ファンドの管理・運用において、コンピュータシステムや通信ネットワークを使用しております。これらのうち基幹システムは、回線の二重化を図るなどの策を講じており、また現在までシステムトラブル等による重大な問題は発生しておりませんが、ハードウェア、ソフトウェアの不具合や人為的ミス、天災、停電等によりコンピュータシステムに障害が発生したり、自然災害や事故等によって通信ネットワークが切断されたりした場合には、当社グループの事業活動及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

(1) 韓国 NAU IB CAPITAL社との業務提携契約の締結

当社グループは、平成23年1月18日付の取締役会において、韓国NAU IB CAPITAL社とベンチャーファンド事業、不動産事業及びM&A仲介事業の各分野で業務提携を行うことを決議し、業務提携契約を締結いたしました。

(2) 韓国 現代証券(株)との業務提携契約の締結

当社の完全子会社である(株)ファンドクリエーションは、平成23年4月7日付の取締役会において、韓国の現代証券(株)と日本の未上場企業の韓国株式市場への上場を推進するためのIPO業務、及び日韓相互におけるM&Aに係る情報交換やM&A支援業務分野での業務提携の覚書を締結することを決議し、締結いたしました。

(3) 中国 フォーチュンリンクとの業務提携契約の締結

当社の完全子会社である(株)ファンドクリエーションは、平成23年7月28日付の取締役会において、フォーチュンリンクとの間で、両社が相乗的発展を遂げられるような技術協力及び合弁事業等をアレンジ・促進することを目的として、業務提携契約の覚書及び合弁合意書を締結することを決議し、締結いたしました。

(4) いちごグループホールディングス(株)との株式譲渡契約の締結と包括業務提携の覚書の締結

当社は、平成23年8月8日付の取締役会において、子会社であるファンドクリエーション不動産投信(株)の全株式をいちごグループホールディングス(株)に譲渡することを決議し、同社との間において「株式譲渡契約書」を締結し、本年8月15日付で譲渡しました。また、同年同日付でいちごグループホールディングス(株)との間で当社グループの不動産事業及び証券事業、同社の不動産運用事業において、それぞれの強みを活かした相互補完的な包括業務提携の覚書を締結いたしました。

なお、詳細は第5 経理の状況 注記事項 企業結合等関係に記載しております。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループの当連結会計年度（自平成22年12月1日至平成23年11月30日）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況については、以下に記載しております。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

（1）重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たり、貸倒引当金の計上について見積り計算を行っており、これらの見積りについては過去の実績等を勘案して合理的に判断しておりますが、実際には、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

（2）財政状態の分析

当連結会計年度末における流動資産の残高は、現金及び預金1,027百万円、未収入金464百万円、販売用不動産及び仕掛販売用不動産6,548百万円を中心に8,147百万円となりました。

当連結会計年度末における固定資産の残高は、有形・無形固定資産29百万円、投資有価証券362百万円を中心に481百万円となりました。

当連結会計年度末における流動負債の残高は、短期借入金1,850百万円、1年内返済予定の長期借入金3,885百万円、1年内償還予定の新株予約権付社債250百万円を中心に6,113百万円となりました。

当連結会計年度末における固定負債の残高は、建設会社への長期未払金1,150百万円を中心に1,187百万円となりました。

当連結会計年度末における純資産の残高は、当社の第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の一部当社普通株式への転換による資本金75百万円及び資本剰余金75百万円の増加、当期純利益66百万円の計上等により1,328百万円となりました。

（3）経営成績の分析

売上高

当連結会計年度におけるアセットマネジメント事業の売上高は366百万円となり、うち不動産ファンド関連報酬として326百万円、証券関連報酬として40百万円を計上しました。一方、インベストメントバンク事業の売上高は476百万円となり、うち匿名組合持分の譲渡益等で105百万円、不動産賃料収入で328百万円、金融商品仲介手数料等で18百万円を計上しました。

この結果、当連結会計年度における売上高は842百万円となりました。

売上原価

当連結会計年度の売上原価は214百万円となり、不動産運用費用等で194百万円、証券投資運用損失等で7百万円を計上しました。

この結果、当連結会計年度における売上総利益は627百万円となりました。

販売費及び一般管理費

当連結会計年度の販売費及び一般管理費は、役員報酬等カットの継続、本社機能移転に伴う事務所賃借料の削減等固定経費の削減を実行した結果、598百万円となりました。

この結果、当連結会計年度の営業利益は29百万円となりました。

営業外損益

当連結会計年度の営業外収益は、受取配当金39百万円、保険解約返戻金43百万円を中心に88百万円を計上し、営業外費用として借入金に対する支払利息131百万円を中心に148百万円を計上しました。

この結果、当連結会計年度の経常損失は31百万円となりました。

特別損益

当連結会計年度の特別利益は、関係会社株式売却益216百万円を計上し、特別損失として固定資産除却損24百万円、事務所移転費用24百万円、債権回収不能損失23百万円を中心に74百万円を計上しました。

この結果、当連結会計年度の税金等調整前当期純利益は110百万円となりました。

当期純利益

当連結会計年度の当期純利益は、法人税等44百万円の計上より66百万円となりました。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度における資本の財源及び資金の流動性の状況は、第2 事業の状況 1 業績等の概要 の(2) キャッシュ・フローをご参照下さい。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施しました設備投資の総額は15百万円で、主に本社機能移転に伴う新事務所の造作、間仕切り及び器具及び備品等の取得であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) セグメント内訳

平成23年11月30日現在

連結子会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	工具、器具 及び備品 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
(株)ファンドクリエーション (東京都千代田区)	アセットマネジメント事業、インベストメントバンク事業	内装設備他	2	10	-	12	21
ファンドクリエーション・アール・エム(株) (東京都千代田区)	アセットマネジメント事業	ネットワーク設備他	-	1	-	1	8
ペトリュス・プロパティ(同) (東京都中央区)	インベストメントバンク事業	駐車場施設	0	-	-	0	0

(2) 提出会社の状況

平成23年11月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	工具、器具 及び備品 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
本社 (東京都千代田区)	消去又は全社	内装設備他	10	2	-	13	5

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在において重要な設備の新設及び除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	116,000,000
計	116,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成23年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月28日)(注)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	37,067,371	37,067,371	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	37,067,371	37,067,371	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成24年2月1日から有価証券報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった株式会社ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。当社が会社法に基づき発行した新株予約権の内容は以下のとおりであります。

イ.株式会社ファンドクリエーショングループ第1回新株予約権

	事業年度末現在 (平成23年11月30日)	提出日の前月末現在 (平成24年1月31日)
新株予約権の数(個)	7	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	14,000(注)1.	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株につき100(注)2.	同左
新株予約権の行使期間	平成21年5月1日から 平成26年10月17日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 100 資本組入額 (注)3.	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4.	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡する場合は取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5.	同左

- (注) 1. 新株予約権の目的たる株式の種類は当社の普通株式とし、新株予約権 1 個当たりの目的となる株式数は 2,000株とする。なお、当社が資本減少、合併、会社分割を行う場合、又は当社が他社と株式交換を行い、完全親会社になる場合など、目的たる株式の数の調整を必要とする止むを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併、会社分割又は株式交換等の条件を勘案の上、合理的な範囲で目的たる株式の数を調整できるものとする。
2. 当社が資本減少、合併、会社分割を行う場合、又は当社が他社と株式交換を行い、完全親会社になる場合など、払込価額の調整を必要とする止むを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併、会社分割又は株式交換等の条件を勘案の上、合理的な範囲で払込価額を調整するものとする。
3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときはその端数を切り上げるものとする。また、この場合、増加する資本準備金の額は、上記の資本金等増加限度額から増加する資本金の額を減じた額とする。
4. (1) 取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・辞任もしくは資格喪失により、当社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは、権利行使することができない。
- (2) 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は自己の都合により退職したときは、権利行使することができない。
- (3) 外部支援者たる新株予約権者が、当社との契約に基づく支援者でなくなったときは、権利行使することができない。
- (4) 上記各号の理由による地位喪失において、当社の子会社や関連会社への転籍出向の場合、又は当社の取締役会が本新株予約権の継続保有を相当と認める一定の事由がある場合には、一定期間を限度として権利行使を認めることができるものとする。
- (5) 新株予約権の譲渡、質入、その他の処分及び相続は認めないものとする。
- (6) その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによる。
5. 当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社(以下「完全親会社」という。)に当該株式交換の日又は株式移転の日をもって承継させる。ただし、当該株式交換にかかる株式交換契約書又は当該株式移転にかかる株主総会決議において、以下に定める方針に沿った内容の定めがなされた場合に限る。
- (1) 新株予約権の目的たる完全親会社の株式の種類
完全親会社の普通株式
- (2) 新株予約権の目的たる完全親会社の株式の数
株式交換又は株式移転の比率に応じて調整する。
調整後の1株未満の端数は切り捨てる。
- (3) 権利行使に際して払い込むべき額
株式交換又は株式移転の比率に応じて調整する。
調整後の1株未満の端数は切り上げる。
- (4) 権利行使期間
株式交換又は株式移転の効力発生日と残存新株予約権の当該期間(以下「権利行使期間」という。)の権利行使開始日のいずれか遅い日より権利行使期間の満了日までとする。
- (5) 権利行使の条件、消却事由等
残存新株予約権の定めに基づいて決定する。
- (6) 新株予約権の譲渡
残存新株予約権の定めに基づいて決定する。
- また、当社が会社分割するにあたっては、会社分割契約書又は会社分割計画書において新株予約権が存続する内容が定められた場合に限り、分割承継会社に新株予約権が承継されるものとする。

ロ.株式会社ファンドクリエーショングループ第2回新株予約権

	事業年度末現在 (平成23年11月30日)	提出日の前月末現在 (平成24年1月31日)
新株予約権の数(個)	227	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	454,000(注)1.	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株につき195(注)2.	同左
新株予約権の行使期間	平成21年5月1日から 平成27年2月24日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 195 資本組入額 (注)3.	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4.	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡する場合は取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5.	同左

- (注)1. 新株予約権の目的たる株式の種類は当社の普通株式とし、新株予約権1個当たりの目的となる株式数は2,000株とする。なお、当社が資本減少、合併、会社分割を行う場合、又は当社が他社と株式交換を行い、完全親会社になる場合など、目的たる株式の数の調整を必要とする止むを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併、会社分割又は株式交換等の条件を勘案の上、合理的な範囲で目的たる株式の数を調整できるものとする。
2. 当社が資本減少、合併、会社分割を行う場合、又は当社が他社と株式交換を行い、完全親会社になる場合など、払込価額の調整を必要とする止むを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併、会社分割又は株式交換等の条件を勘案の上、合理的な範囲で払込価額を調整するものとする。
3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときはその端数を切り上げるものとする。また、この場合、増加する資本準備金の額は、上記の資本金等増加限度額から増加する資本金の額を減じた額とする。
4. (1) 取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・辞任もしくは資格喪失により、当社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは、権利行使することができない。
- (2) 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は自己の都合により退職したときは、権利行使することができない。
- (3) 上記各号の理由による地位喪失において、当社の子会社や関連会社への転籍出向の場合、又は当社の取締役会が本新株予約権の継続保有を相当と認める一定の事由がある場合には、一定期間を限度として権利行使を認めることができるものとする。
- (4) 新株予約権の譲渡、質入、その他の処分及び相続は認めないものとする。
- (5) その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによる。

5. 当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社(以下「完全親会社」という。)に当該株式交換の日又は株式移転の日をもって承継させる。ただし、当該株式交換にかかる株式交換契約書又は当該株式移転にかかる株主総会決議において、以下に定める方針に沿った内容の定めがなされた場合に限る。

- (1) 新株予約権の目的たる完全親会社の株式の種類
完全親会社の普通株式
- (2) 新株予約権の目的たる完全親会社の株式の数
株式交換又は株式移転の比率に応じて調整する。
調整後の1株未満の端数は切り捨てる。
- (3) 権利行使に際して払い込むべき額
株式交換又は株式移転の比率に応じて調整する。
調整後の1株未満の端数は切り上げる。
- (4) 権利行使期間
株式交換又は株式移転の効力発生日と残存新株予約権の当該期間(以下「権利行使期間」という。)の権利行使開始日のいずれか遅い日より権利行使期間の満了日までとする。
- (5) 権利行使の条件、消却事由等
残存新株予約権の定めに基づいて決定する。
- (6) 新株予約権の譲渡
残存新株予約権の定めに基づいて決定する。

また、当社が会社分割するにあたっては、会社分割契約書又は会社分割計画書において新株予約権が存続する内容が定められた場合に限り、分割承継会社に新株予約権が承継されるものとする。

八.株式会社ファンドクリエーショングループ第3回新株予約権

	事業年度末現在 (平成23年11月30日)	提出日の前月末現在 (平成24年1月31日)
新株予約権の数(個)	74	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	148,000(注)1.	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株につき195(注)2.	同左
新株予約権の行使期間	平成21年5月1日から 平成27年9月27日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 195 資本組入額 (注)3.	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4.	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡する場合は取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5.	同左

(注)1. 新株予約権の目的たる株式の種類は当社の普通株式とし、新株予約権1個当たりの目的となる株式数は2,000株とする。なお、当社が資本減少、合併、会社分割を行う場合、又は当社が他社と株式交換を行い、完全親会社になる場合など、目的たる株式の数の調整を必要とする止むを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併、会社分割又は株式交換等の条件を勘案の上、合理的な範囲で目的たる株式の数を調整できるものとする。

2. 当社が資本減少、合併、会社分割を行う場合、又は当社が他社と株式交換を行い、完全親会社になる場合など、払込価額の調整を必要とする止むを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併、会社分割又は株式交換等の条件を勘案の上、合理的な範囲で払込価額を調整するものとする。

3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときはその端数を切り上げるものとする。また、この場合、増加する資本準備金の額は、上記の資本金等増加限度額から増加する資本金の額を減じた額とする。
4. (1) 取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・辞任もしくは資格喪失により、当社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは、権利行使することができない。
(2) 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は自己の都合により退職したときは、権利行使することができない。
(3) 外部支援者たる新株予約権者が、当社との契約に基づく支援者でなくなったときは、権利行使することができない。
(4) 上記各号の理由による地位喪失において、当社の子会社や関連会社への転籍出向の場合、又は当社の取締役会が本新株予約権の継続保有を相当と認める一定の事由がある場合には、一定期間を限度として権利行使を認めることができるものとする。
(5) 新株予約権の譲渡、質入、その他の処分及び相続は認めないものとする。
(6) その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによる。
5. 当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社(以下「完全親会社」という。)に当該株式交換の日又は株式移転の日をもって承継させる。ただし、当該株式交換にかかる株式交換契約書又は当該株式移転にかかる株主総会決議において、以下に定める方針に沿った内容の定めがなされた場合に限る。
 - (1) 新株予約権の目的たる完全親会社の株式の種類
完全親会社の普通株式
 - (2) 新株予約権の目的たる完全親会社の株式の数
株式交換又は株式移転の比率に応じて調整する。
調整後の1株未満の端数は切り捨てる。
 - (3) 権利行使に際して払い込むべき額
株式交換又は株式移転の比率に応じて調整する。
調整後の1株未満の端数は切り上げる。
 - (4) 権利行使期間
株式交換又は株式移転の効力発生日と残存新株予約権の当該期間(以下「権利行使期間」という。)の権利行使開始日のいずれか遅い日より権利行使期間の満了日までとする。
 - (5) 権利行使の条件、消却事由等
残存新株予約権の定めに基づいて決定する。
 - (6) 新株予約権の譲渡
残存新株予約権の定めに基づいて決定する。また、当社が会社分割するにあたっては、会社分割契約書又は会社分割計画書において新株予約権が承継する内容が定められた場合に限り、分割承継会社に新株予約権が承継されるものとする。

二.株式会社ファンドクリエーショングループ第4回新株予約権

	事業年度末現在 (平成23年11月30日)	提出日の前月末現在 (平成24年1月31日)
新株予約権の数(個)	115	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	230,000(注)1.	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株につき520(注)2.	同左
新株予約権の行使期間	平成21年5月1日から 平成27年9月27日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の 発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 520 資本組入額 (注)3.	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4.	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡する 場合は取締役会の承認を必要と する。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5.	同左

(注)1. 新株予約権の目的たる株式の種類は当社の普通株式とし、新株予約権1個当たりの目的となる株式数は2,000株とする。なお、当社が資本減少、合併、会社分割を行う場合、又は当社が他社と株式交換を行い、完全親会社になる場合など、目的たる株式の数の調整を必要とする止むを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併、会社分割又は株式交換等の条件を勘案の上、合理的な範囲で目的たる株式の数を調整できるものとする。

2. 当社が資本減少、合併、会社分割を行う場合、又は当社が他社と株式交換を行い、完全親会社になる場合など、払込価額の調整を必要とする止むを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併、会社分割又は株式交換等の条件を勘案の上、合理的な範囲で払込価額を調整するものとする。
3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときはその端数を切り上げるものとする。また、この場合、増加する資本準備金の額は、上記の資本金等増加限度額から増加する資本金の額を減じた額とする。
4. (1) 取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・辞任もしくは資格喪失により、当社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは、権利行使することができない。
(2) 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は自己の都合により退職したときは、権利行使することができない。
(3) 外部支援者たる新株予約権者が、当社との契約に基づく支援者でなくなったときは、権利行使することができない。
(4) 上記各号の理由による地位喪失において、当社の子会社や関連会社への転籍出向の場合、又は当社の取締役会が本新株予約権の継続保有を相当と認める一定の事由がある場合には、一定期間を限度として権利行使を認めることができるものとする。
(5) 新株予約権の譲渡、質入、その他の処分及び相続は認めないものとする。
(6) その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによる。

5. 当社が完全子会社となる株式交換又は株式移転を行う場合は、新株予約権に係る義務を、当該株式交換又は株式移転による完全親会社(以下「完全親会社」という。)に当該株式交換の日又は株式移転の日をもって承継させる。ただし、当該株式交換にかかる株式交換契約書又は当該株式移転にかかる株主総会決議において、以下に定める方針に沿った内容の定めがなされた場合に限る。

- (1) 新株予約権の目的たる完全親会社の株式の種類
完全親会社の普通株式
- (2) 新株予約権の目的たる完全親会社の株式の数
株式交換又は株式移転の比率に応じて調整する。
調整後の1株未満の端数は切り捨てる。
- (3) 権利行使に際して払い込むべき額
株式交換又は株式移転の比率に応じて調整する。
調整後の1株未満の端数は切り上げる。
- (4) 権利行使期間
株式交換又は株式移転の効力発生日と残存新株予約権の当該期間(以下「権利行使期間」という。)の権利行使開始日のいずれか遅い日より権利行使期間の満了日までとする。
- (5) 権利行使の条件、消却事由等
残存新株予約権の定めに基づいて決定する。
- (6) 新株予約権の譲渡
残存新株予約権の定めに基づいて決定する。

また、当社が会社分割するにあたっては、会社分割契約書又は会社分割計画書において新株予約権が存続する内容が定められた場合に限り、分割承継会社に新株予約権が承継されるものとする。

会社法に基づき発行した新株予約権付社債は、次のとおりであります。

株式会社ファンドクリエーショングループ第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(平成21年7月13日取締役会決議)

	事業年度末現在 (平成23年11月30日)	提出日の前月末現在 (平成24年1月31日)
新株予約権付社債の残高(百万円)	250	同左
新株予約権の数(個)	25	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	(注)1.	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)2.	同左
新株予約権の行使期間	平成21年8月3日から 平成24年7月30日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格(注)3. 資本組入額(注)4.	同左
新株予約権の行使の条件	当社が任意繰上償還(平成21年9月1日以降いつでも、当社は、本新株予約権付社債の社債権者に対して、14営業日以上前に通知した上で、当該通知において指定した償還日に、残存本社債の全部(一部は不可)を、額面100円につき金100円で繰上償還することができる。)により本社債を繰上償還する場合には、繰上償還に係る償還日以後、本新株予約権を行使できない。また、各本新株予約権の一部行使はできないものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権付社債は会社法第254条第2項本文及び第3項本文の定めにより本社債又は本新株予約権のうち一方のみを譲渡することはできない。	同左
代用払込みにに関する事項	本新株予約権の行使に際して出資される財産は、当該本新株予約権に係る本社債とし、当該本社債の価額はその払込金額と同額とする。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5.	同左

(注)1. 本新株予約権の行使により当社が当社普通株式を新たに発行し、又はこれに代えて当社の保有する当社普通株式を移転(以下当社普通株式の発行又は移転を「交付」という。)する数は、行使請求に係る本社債の払込金額の総額を転換価額(以下に定義する。)で除して得られた数とする。但し、行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。また、本新株予約権の行使により単元未満株式(1単元の株式の数は100株)が発生する場合、会社法に定める単元未満株式の買取請求権が行使されたものとして現金により精算する。

2. 1. 新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及びその価額

各本新株予約権の行使に際して出資される財産は、当該本新株予約権に係る本社債とし、当該本社債の価額は、本社債の払込金額と同額とする。

2. 転換価額は、当初105円とする。但し、転換価額は3. 転換価額の調整に定めるところにより調整されることがある。

3. 転換価額の調整

(1) 当社は、本新株予約権付社債の発行後、本項(2)に掲げる各事由により当社の発行済普通株式数に変更を生じる場合又は変更を生じる可能性がある場合には、次に定める算式(以下「転換価額調整式」という。)をもって転換価額を調整する。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行・処分株式数} \times 1 \text{株当たりの払込・処分金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行・処分株式数}}$$

(2) 転換価額調整式により転換価額の調整を行う場合及びその調整後の転換価額の適用時期については、次に定めるところによる。

本項(4)に定める時価を下回る発行価額又は処分価額をもって普通株式を新たに発行し、又は当社の有する当社の普通株式を処分する場合(但し、当社普通株式の発行・移転を請求できる新株予約権の行使及び株式交換又は合併により当社の普通株式を発行・移転する場合を除く。)調整後の転換価額は、払込期日の翌日以降又はかかる発行もしくは処分のための基準日がある場合はその日の翌日以降これを適用する。

株式分割又は当社普通株式の無償割当てをする場合

調整後の転換価額は、株式分割又は無償割当てのための基準日の翌日以降これを適用する。但し、剰余金から資本に組み入れられることを条件にその部分をもって株式分割により普通株式を発行する旨取締役会で決議する場合は、当該剰余金の資本組入れの決議をした株主総会の終結の日の翌日以降これを適用する。なお、上記但書きの場合において、株式分割のための基準日の翌日から当該剰余金の資本組入れの決議をした株主総会の終結の日までに行使請求をなした者に対しては、次の算出方法により、当社の普通株式を発行・移転する。

$$\text{株式数} = \frac{(\text{調整前転換価額} - \text{調整後転換価額}) \times \frac{\text{調整前転換価額により当該期間内に交付された当社普通株式数}}{\text{調整後転換価額}}}{1}$$

この場合に1株未満の端株は切り捨て、現金による調整は行わない。

本項(4)に定める時価を下回る価額をもって当社の普通株式に転換される証券もしくは転換できる証券又は当社の普通株式の発行・移転を請求できる新株予約権もしくは新株予約権付社債を発行又は付与する場合

調整後の転換価額は、発行又は付与される証券又は新株予約権もしくは新株予約権付社債の全てが当初の転換価額で転換され、又は当初の行使価額で行使され、当社が普通株式を新たに発行したものとみなして転換価額調整式を適用して算出するものとし、払込期日(新株予約権が無償にて発行される場合は発行日)の翌日以降、又は、その証券の発行もしくは付与のための基準日がある場合は、その日の翌日以降、これを適用する。

(3) 転換価額調整式により算出された調整後の転換価額と調整前の転換価額との差額が1円未満にとどまる限りは、転換価額の調整はこれを行わない。但し、その後転換価額の調整を必要とする事由が発生し、転換価額を調整する場合には、転換価額調整式中の調整前転換価額に代えて調整前転換価額からこの差額を差し引いた額を使用する。

(4) 転換価額調整式の計算については、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。

転換価額調整式で使用する時価は、調整後の転換価額を適用する日に先立つ45取引日目に始まる30取引日(終値のない日数を除く。)の株式会社大阪証券取引所のJASDAQ(スタンダード)における当社普通株式の普通取引の終値の平均値(終値のない日数を除く。)とする。この場合、平均値の計算は、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。

転換価額調整式で使用する既発行株式数は、基準日がある場合はその日、又、基準日がない場合は、調整後の転換価額を初めて適用する日の1か月前の日における当社の発行済普通株式数から、当該日において当社の有する当社の普通株式の数を控除した数とする。

- (5) 本項(2)の転換価額の調整を必要とする場合以外にも、次に掲げる場合には、当社は、本社債権者と協議のうえ、その承認を得て、必要な転換価額の調整を行う。

株式併合、資本減少、会社法第762条第1項に定められた新設分割、会社法第757条に定められた吸収分割、又は合併のために転換価額の調整を必要とするとき、

その他当社の普通株式の数の変更又は変更の可能性が生じる事由の発生により転換価額の調整を必要とするとき、

転換価額を調整すべき複数の事由が相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の転換価額の算出にあたり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき、

- (6) 本項(1)により転換価額の調整を行うときには、当社は、あらかじめ書面によりその旨並びにその事由、調整前の転換価額、調整後の転換価額及びその適用開始日その他必要な事項を当該適用開始日の前日までに公告する。但し、法令に別段の定めがある場合を除き、公告の掲載に代えて各本社債権者に直接通知する方法によることができる。

3. 本新株予約権の行使により発行する当社普通株式1株の発行価格は、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄(注)2.第2項記載の転換価額(但し、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄(注)2.第3項によって転換価額が調整された場合は調整後の転換価額)とする。
4. 本新株予約権の行使により当社普通株式を発行する場合の増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の定めるところに従って算出された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生ずる場合は、その端数を切り上げるものとする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。
5. 当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)を行う場合は、組織再編行為の効力発生日の直前において残存する本新株予約権の新株予約権者に対して、当該新株予約権者の有する本新株予約権に代えて、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権で、以下の から までの内容のもの(以下「承継新株予約権」という。)を交付する。この場合、組織再編行為の効力発生日において、本新株予約権は消滅し、本社債についての社債に係る債務は再編対象会社に承継され、本新株予約権の新株予約権者は、承継新株予約権の新株予約権者となるものとし、本新株予約権に関する規定を当該承継新株予約権について準用する。但し、吸収分割又は新設分割を行う場合は、その効力発生日の直前において残存する本新株予約権の新株予約権者に対して当該本新株予約権に代えて再編対象会社の承継新株予約権を交付し、再編対象会社が本社債についての社債に係る債務を承継する旨を、吸収分割契約又は新設分割計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の承継新株予約権の数

組織再編行為の効力発生日の直前において残存する本新株予約権付社債の社債権者が保有する本社債に係る本新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

承継新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

承継新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の数

当該組織再編行為の効力発生日の直前において有効な本新株予約権の転換価額を別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄(注)2.第3項に準じた調整を行ったうえ本新株予約権付社債の発行要項を参照して決定する。なお、組織再編行為の効力発生日以後における承継新株予約権の転換価額は、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄(注)2.第3項の調整に準じた調整を行う。

承継新株予約権の行使に際して出資の目的とされる財産の内容及びその価額

交付される各承継新株予約権の行使に際して出資する目的とされる財産は、当該各承継新株予約権に係る本社債とし、当該各社債の価額は、別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄(注)2.第1項に定める価額と同額とする。

承継新株予約権の行使期間

別記「新株予約権の行使期間」欄に定める本新株予約権の行使期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、別記「新株予約権の行使期間」欄に定める本新株予約権の行使期間の満了日までとする。

承継新株予約権の行使の条件及び承継新株予約権の取得条項

別記「新株予約権の行使の条件」に準じて決定し、承継新株予約権の取得事由は定めない。

承継新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

承継新株予約権の行使により当社普通株式を発行する場合の増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の定めるところに従って算出された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生ずる場合は、その端数を切り上げるものとする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。

6. 当社は平成22年4月6日開催の臨時取締役会にて「株式会社ファンドクリエーショングループ第1回無担保転換社債型新株予約権付社債」(以下「本新株予約権付社債」という。)の額面200百万円相当分(1,904,761株相当)を譲り受けることができる権利を田島克洋がいちごトラストへ有償で付与することを承認している。
7. 当社は平成23年8月19日開催の臨時取締役会において、田島克洋がいちごトラストに付与することができる本新株予約権付社債の額面200百万円相当分(1,904,761株相当)のうち額面150百万円相当分(1,428,571株相当)を譲渡することを承認している。これを受けて田島克洋は平成23年8月22日付でいちごトラストへ本新株予約権付社債額面150百万円相当分(1,428,571株相当)を譲渡し、同日付いちごトラストは譲り受けた本新株予約権付社債全額を行使している。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(百万円)	資本金残高(百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
平成21年5月1日 (注)1	33,588,800	33,588,800	1,000	1,000	478	478
平成22年5月12日 (注)2	2,050,000	35,638,800	56	1,056	56	534
平成23年8月22日 (注)3	1,428,571	37,067,371	75	1,131	75	609

(注)1. 当社は、平成21年5月1日に株式移転により設立しております。

2. 第三者割当 発行価額 55円 資本組入額 27.5円

割当先 いちごアセットトラスト 2,050,000株

3. 株式会社ファンドクリエーショングループ第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成23年11月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)							計	単元未満の株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他(注)		
					個人以外	個人			
株主数(人)	0	2	20	40	10	11	5,522	5,605	-
所有株式数(単元)	0	13,421	31,074	52,291	31,965	244	241,676	370,671	271
所有株式数の割合(%)	0	3.62	8.38	14.10	8.62	0.06	65.19	100.00	-

(注) (株)ファンドクリエーションが保有する相互保有株式2,775単元は、「その他の法人」に含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成23年11月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
田島克洋	東京都港区	14,052,400	37.91
有限会社T's Holdings	東京都港区赤坂二丁目17番50号	4,800,000	12.94
いちごトラスト (常任代理人 香港上海銀行東京支 店カストディ業務部)	SECOND FLOOR, COMPASS CENTRE, P.O. BOX 448. SHEDDEN ROAD, GEORGE TOWN, GRAND CAYMAN KY 1-1106, CAYMAN ISLANDS (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	2,848,771	7.68
藍澤證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目20番3号	2,100,000	5.66
大阪証券金融株式会社	大阪市中央区北浜2丁目4-6	1,285,400	3.46
宮本裕司	東京都世田谷区	1,171,500	3.16
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	413,100	1.11
安藤孝子	東京都大田区	300,000	0.80
大塚忠彦	東京都港区	277,400	0.74
吉見和彦	埼玉県春日部市	185,000	0.49
計	-	27,433,571	74.01

(注)1. 平成23年11月30日現在、(株)ファンドクリエーションは、当社株式277,500株保有しておりますが、当該株式には議決権がないため、上記大株主から除いております。

(注)2. 前事業年度末現在主要株主であった藍澤證券株式会社は、当事業年度末では主要株主ではなくなりました。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(相互保有株式) 普通株式 277,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 36,789,600	367,896	-
単元未満株式	普通株式 271	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	37,067,371	-	-
総株主の議決権	-	367,896	-

【自己株式等】

平成23年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(相互保有株式) 株)ファンドクリエーション	東京都千代田区 麴町一丁目4番地	277,500	-	277,500	0.74
計	-	277,500	-	277,500	0.74

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社のストックオプション制度は、以下のとおりであります。

株式会社ファンドクリエーショングループ第1回新株予約権

決議年月日	平成16年10月18日(注)1.
付与対象者の区分及び人数	株式会社ファンドクリエーション取締役 1名 株式会社ファンドクリエーション従業員 12名 株式会社ファンドクリエーション関係会社役員及び関係会社従業員 11名 (注)2.
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。

(注)1. 株式会社ファンドクリエーション第7回新株予約権の決議年月日であります。

2. 株式会社ファンドクリエーション第7回新株予約権の決議当時の付与対象者の区分及び人数であります。

株式会社ファンドクリエーショングループ第2回新株予約権

決議年月日	平成17年2月25日開催の株主総会及び平成17年9月30日開催の取締役会(注)1.
付与対象者の区分及び人数	株式会社ファンドクリエーション従業員 16名 株式会社ファンドクリエーション関係会社役員及び関係会社従業員 6名 外部協力者 5名 (注)2.
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。

(注)1. 株式会社ファンドクリエーション第8回新株予約権の決議年月日であります。

2. 株式会社ファンドクリエーション第8回新株予約権の決議当時の付与対象者の区分及び人数であります。

株式会社ファンドクリエーショングループ第3回新株予約権

決議年月日	平成17年9月28日開催の株主総会及び平成17年9月30日開催の取締役会(注)1.
付与対象者の区分及び人数	株式会社ファンドクリエーション監査役 1名 株式会社ファンドクリエーション従業員 2名 株式会社ファンドクリエーション関係会社役員及び関係会社従業員 8名 外部協力者 1名 (注)2.
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

(注)1. 株式会社ファンドクリエーション第9回(あ)新株予約権の決議年月日であります。

2. 株式会社ファンドクリエーション第9回(あ)新株予約権の決議当時の付与対象者の区分及び人数であります。

株式会社ファンドクリエーショングループ第4回新株予約権

決議年月日	平成17年9月28日開催の株主総会及び平成18年4月21日開催の取締役会(注)1.
付与対象者の区分及び人数	株式会社ファンドクリエーション取締役 1名 株式会社ファンドクリエーション監査役 1名 株式会社ファンドクリエーション従業員 11名 株式会社ファンドクリエーション関係会社役員及び関係会社従業員 11名 (注)2.
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

(注)1. 株式会社ファンドクリエーション第9回(い)新株予約権の決議年月日であります。

2. 株式会社ファンドクリエーション第9回(い)新株予約権の決議当時の付与対象者の区分及び人数であります。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題と認識しておりますが、経営成績及び財務状態の推移並びに今後の事業計画を十分に勘案し、総合的に決定していく方針であります。また、内部留保資金につきましては、長期的な株主利益を考慮し、財務体質の強化及び更なる事業展開に向けた投資に有効活用してまいります。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としており、配当の決定機関は株主総会であります。なお、当事業年度の配当金につきましては、誠に遺憾ではございますが無配当とさせていただきます。

中間配当につきましては、取締役会の決議により、毎年5月31日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めておりますが当面は内部留保とさせていただきます。

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第1期	第2期	第3期
決算年月	平成21年11月	平成22年11月	平成23年11月
最高(円)	162	84	221
最低(円)	45	38	6

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日まではジャスダック証券取引所におけるものであります。なお、平成22年4月1日以降は大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

なお、平成21年5月1日付をもって同取引所に株式を上場いたしましたので、それ以前の株価について該当事項はありません。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年6月	7月	8月	9月	10月	11月
最高(円)	197	221	201	117	107	89
最低(円)	129	151	97	80	75	57

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役	社長	田島 克洋	昭和39年9月7日生	昭和63年4月 大和証券株式会社(現：株式会社大和証券グループ本社) 入社 平成12年2月 プリヴェチュリーヒ証券株式会社 取締役 平成14年2月 株式会社ジョイント・コーポレーション 資産証券部長 平成14年3月 株式会社ジョイント・アセットマネジメント 代表取締役社長 平成14年3月 ジョイント証券株式会社 代表取締役社長 平成14年12月 株式会社ファンドクリエーション設立 代表取締役社長(現任) 平成16年2月 F C リート・アドバイザーズ株式会社(現：いちごリートマネジメント株式会社) 取締役 平成16年7月 上海創喜投資諮詢有限公司 董事長 平成17年11月 F C パートナーズ株式会社 取締役(現任) 平成18年11月 上海創喜投資諮詢有限公司 董事(現任) 平成21年1月 ファンドクリエーション・アール・エム株式会社 代表取締役社長(現任) 平成21年5月 当社設立 代表取締役社長(現任) 平成23年12月 徳石忠源(上海)投資管理有限公司 副董事長(現任)	(注)1.	14,052,400
取締役	内部監査室長兼グループコンプライアンス統括	大塚 忠彦	昭和17年6月21日生	昭和43年4月 立石電気株式会社(現：オムロン株式会社) 入社 平成10年2月 OMRON自動化(中国)集団 総裁、OMRON(中国)有限公司 総経理・董事長 平成15年9月 株式会社ファンドクリエーション 取締役 平成18年11月 上海創喜投資諮詢有限公司 董事長(現任) 平成19年12月 株式会社ファンドクリエーション 取締役 内部監査室長兼コンプライアンスオフィサー(現任) 平成21年2月 F C パートナーズ株式会社 代表取締役社長(現任) 平成21年5月 当社 取締役 内部監査室長兼コンプライアンスオフィサー 平成22年10月 当社 取締役 内部監査室長兼グループコンプライアンス統括(現任)	(注)1.	277,400

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	-	保成 久男	昭和18年9月30日生	昭和37年4月 大和証券株式会社(現：株式会社大和証券グループ本社) 入社 平成6年6月 同社 取締役本店営業部長 平成9年6月 同社 常務取締役 首都圏中営業本部長 平成11年4月 日本インベストメント・ファイナンス株式会社(現：大和企业投資株式会社) 顧問 平成11年6月 同社 専務取締役 平成13年6月 同社 代表取締役副社長 平成17年7月 株式会社ファンドクリエーション 特別顧問 平成18年2月 同社 取締役(現任) 平成18年12月 F C パートナース株式会社 取締役(現任) 平成21年5月 当社 取締役(現任)	(注) 1.	58,200
取締役	-	宮本 裕司	昭和40年5月13日生	昭和63年4月 大和証券株式会社(現：株式会社大和証券グループ本社)入社 平成10年7月 大和証券投資信託委託株式会社 商品開発部 マーケティング部 平成12年8月 プリヴェチュリーリッヒ証券株式会社 平成14年2月 株式会社ジョイント・コーポレーション 資産証券部次長 平成14年3月 ジョイント証券株式会社 取締役 平成15年3月 株式会社ファンドクリエーション 執行役員 平成19年12月 同社 常務執行役員 経営企画部長 平成21年2月 同社 取締役 常務執行役員 経営企画部長 平成21年5月 当社 取締役 経営企画部長 平成22年3月 株式会社 F C インベストメント・アドバイザーズ 代表取締役社長(現任) 平成22年5月 フェリスウィールインベストメント株式会社 代表取締役社長(現任) 平成22年6月 株式会社ファンドクリエーション 取締役 常務執行役員 ファンド営業推進室長 平成22年6月 当社 取締役(現任) 平成23年12月 株式会社ファンドクリエーション 取締役(現任)	(注) 1.	1,171,500

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	-	伊藤 悠一	昭和22年12月13日生	昭和45年4月 田口証券株式会社(現:SMBCフレン ド証券株式会社) 入社 平成13年6月 同社 取締役営業推進部長 平成14年6月 同社 執行役員商品部長 平成15年10月 同社 執行役員引受部長 平成16年9月 株式会社ファンドクリエーション 入社 平成16年10月 ファンドクリエーション不動産投信株式 会社(現:いちごリートマネジメント株 式会社) 取締役兼コンプライアンスオ フィサー 平成19年9月 ファンドクリエーション・アール・エム 株式会社 代表取締役社長 平成21年1月 ファンドクリエーション・アール・エム 株式会社 取締役 平成21年2月 株式会社ファンドクリエーション 監査役 (現任) 平成21年5月 当社 監査役(現任)	(注)2.	11,000
監査役	-	佐藤 貴夫	昭和38年8月5日生	平成7年4月 弁護士登録(第二東京弁護士会) 平成13年4月 佐藤貴夫法律事務所(現:佐藤総合法律 事務所) 開設 平成17年9月 株式会社ファンドクリエーション 社外監 査役(現任) 平成18年5月 株式会社東横イン 社外取締役(現任) 平成20年6月 株式会社トランスジェニック 社外監査役 (現任) 平成21年5月 当社 社外監査役(現任) 平成23年10月 霞が関法律会計事務所(現任)	(注)2. (注)3.	-
監査役	-	蓮沼 彰良	昭和27年11月30日生	昭和51年4月 三井信託銀行株式会社入社 平成2年7月 同社 資金為替部 市場営業室長 平成5年7月 藍澤証券株式会社へ出向 平成13年4月 中央三井信託銀行株式会社 調査部次長 平成13年11月 藍澤証券株式会社へ出向 平成16年1月 藍澤証券株式会社 入社 平成16年4月 同社 ブルートレードセンター長 平成18年6月 同社 理事 ブルートレードセンター長 平成19年6月 同社 執行役員 管理本部長(現任) 平成20年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 社 外取締役 平成20年6月 フューチャーベンチャーキャピタル株式 会社 社外取締役 平成21年2月 株式会社ファンドクリエーション 社外監 査役(現任) 平成21年5月 当社 社外監査役(現任) 平成21年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 監 査役(現任) 平成23年4月 株式会社イー・シー・エス 社外取締役(現任)	(注)2. (注)3.	-
計						15,570,500

- (注) 1. 取締役の任期は、平成23年2月25日より平成24年11月期に係る定時株主総会の終結の時であります。
2. 監査役の任期は、平成21年5月1日である当社の設立日より、平成24年11月期に係る定時株主総会の終結の時であります。
3. 監査役佐藤貴夫、蓮沼彰良は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
4. 当社は、法令に定める監査役員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選出しております。補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
石垣 敦朗	昭和38年4月29日	昭和62年10月 中央新光監査法人入所 平成7年7月 石垣公認会計士事務所 開業	-

- (注) 1. 補欠監査役は、社外監査役の要件を満たしております。
2. 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

当社の取締役会は取締役4名で構成されており、毎月1回開催される定時取締役会と随時開催される臨時取締役会において取締役会規程に基づいた重要事項の審議並びに予算及び事業の進捗状況が報告されております。

当社の監査役会は常勤監査役1名、社外監査役2名で構成されております。監査役は取締役会への出席、また毎月1回開催される監査役会に出席し、取締役の職務執行に関する適法性、妥当性等の観点から業務監査を実施しております。

その他にも代表取締役とグループ会社の執行役員及び社長が業務に関する報告を週に1度行う会議や新規プロジェクトミーティング及び各委員会等を設けてビジネス案件の審議機能を充実させ、以てその業務監視機能を拡大させたほか、株主等に対するIR活動等も含めた企業情報開示体制やその開示ツールとしてインターネット上のホームページを開設するなど、当社グループ設立より継続的にコーポレート・ガバナンス機能の充実を図っております。

今後一層、経営上の組織体制や仕組みを整備し、必要な施策を講じることにより、コーポレート・ガバナンス機能を更に強化していくことが経営の重要課題であると位置付けております。

ロ 企業統治の体制を採用する理由

当社では、コーポレート・ガバナンス構築の目的を株主をはじめとしたステークホルダーに対し自らの企業価値を維持・向上させることにありと認識しております。このような考え方のもと、当社は、経営の迅速化・効率化・透明性等向上のための社内諸体制の整備に努め、より確かなコーポレート・ガバナンスの構築を推進していくために現在の体制を採用しております。

八 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

? . 取締役会

取締役の員数を6名以内とし、毎月1回以上の取締役会を開催しております。重要事項の決定に関しては、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。また、定例の取締役会では、月次決算に関する予算と実績の比較検討を行い、経営判断の迅速化に努めております。

? . 監査役会

監査役5名以内とし、毎月1回の監査役会に加え、随時必要に応じて臨時監査役会を開催しております。

? . 監査役監査

監査役監査については、当社の各部門に対する監査のほか子会社に対する監査も実施し、それぞれの部門責任者、子会社の役員に対するヒアリングを実施しております。

? . 内部監査

当社では、内部監査室(1名)を設置し、内部監査室においては、当社の各部門及び関係会社に対する内部監査を通じて、会社の業務活動が適正かつ効率的に行われているかを監査しております。

また、社内の企業倫理・法令遵守等を推進するためグループコンプライアンス統括を任命して、内部監査室長がこれを兼務しております。

? . 監査法人

当社は、会計監査人として清和監査法人と監査契約を締結しており、同監査法人が会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を実施しております。

当期において業務を執行した公認会計士の氏名及び当社に係る継続監査年数、監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名
指定社員 業務執行社員 川田 増三 (3年)
指定社員 業務執行社員 藤本 亮 (2年)
- ・会計監査業務に係る補助者
公認会計士 2名
会計士補助等 8名

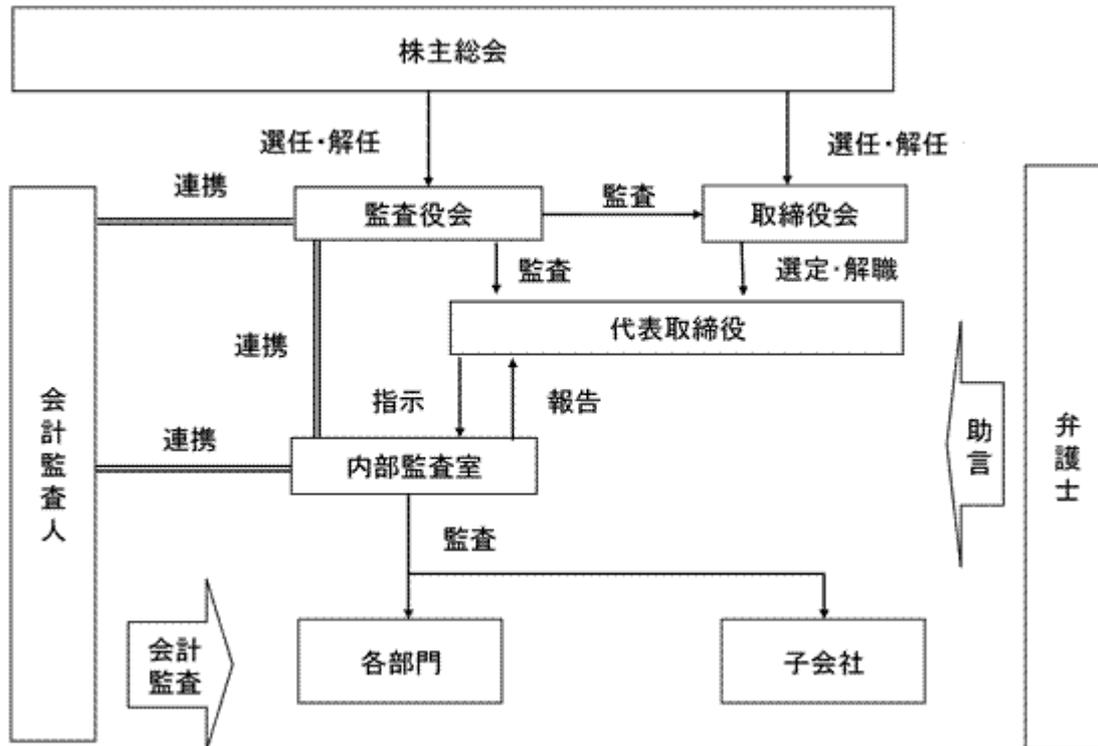
？. 弁護士

当社は、日常業務において法令遵守が実行できる環境を整えるべく、適宜しかるべき弁護士から法的助言を得ております。

当社は、株主総会、取締役会、監査役会、内部監査室といった機関を適切に機能させ、企業としての適法な運営を行っております。

下記に会社の機関をまとめております。

(会社の機関)



ニ リスク管理体制の整備状況

当社は、企業活動を行うにあたり、法令等を遵守した行動をすることが重要であると考えております。

運用については、コンプライアンス委員会において管理・モニタリングを行い、取締役会で承認された各種規程に基づき社内における企業倫理の徹底に取り組み、弁護士・監査法人・顧問税理士等の外部機関より適宜アドバイスを頂く体制も構築しております。

また、危機管理体制としましては、当社の経営に重大な影響を与える不測の事態が発生した場合には、迅速に必要な初期対応を行い、損害・影響等を最小限にとどめる体制を整えております。

ホ 責任限定契約の内容の概要

当社の取締役及び監査役（取締役または監査役であった者を含む。）の会社法第423条第1項の責任について、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議により、法令の定める限度額の範囲内でその責任を免除できる旨を定款に定めております。取締役会の決議にする理由は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするものであります。

また、当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める限度額までとしております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

内部監査及び監査役監査の状況

イ 内部監査

当社では、各部門から独立した内部監査室(1名)を設置し、内部監査室は、内部監査計画に基づき当社の各部門及び関係会社に対する定期的な内部監査を通じて、会社の業務活動が適正かつ効率的に行われているかを監査しております。また、監査の結果については取締役会において報告され業務の改善を促進しております。

ロ 監査役監査

監査役は3名でありその内の2名は社外監査役で構成されております。毎月1回監査役会を開催し、取締役が執行する業務の検討や監査役相互の意見交換を実施しております。また、監査役監査の実施については、当社の各部門に対する監査のほか子会社に対する監査も実施し、それぞれの部門責任者、子会社の役員に対するヒアリングを実施しております。

八 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

会計監査人との連携については、会計監査人から経営者に対して四半期ごとに行われる監査報告に、監査役、内部監査室長が臨席し、会計監査の過程、結果を確認しております。また内部統制部門である総合企画室は、これらの監査の結果を受けて必要があれば規程等の制定を行い、内部統制システムの整備に努めております。

社外取締役及び社外監査役

イ 社外取締役及び社外監査役の員数

当社は社外取締役を選任しておりませんが、監査役3名のうち2名は社外監査役であります。

ロ 社外監査役の機能及び役割、選任状況に関する考え方、並びに当社との関係

社外監査役である佐藤貴夫は当社や当社のグループ会社との主要な取引がなく、また当社の主要株主でないことから当社からの独立性が高く、弁護士としての経験が豊富なことから特に法務面からの客観的意見を取り入れるため選任いたしました。その独立性の高さから当社は同氏を独立役員として選任しております。また同氏は、新株予約権を2個保有しておりますが、それ以外に当社との間に資本的関係、取引関係はありません。

また、同じく社外監査役である蓮沼彰良は藍澤證券(株)の執行役員管理本部長を務めており、これまで培ってきたビジネス経験・知識などを活かして助言をいただくことで当社の経営の意思決定の妥当性・適正性を確保するため選任いたしました。同氏は、当社の株式及び新株予約権を保有しておりませんが、資本関係としては、所属している藍澤證券(株)が当社の議決権5.7%を持つ大株主であります。さらに、(株)FCインベストメント・アドバイザーズから1名が藍澤證券(株)に出向しております。その他の利害関係としては、当社グループが組成し、管理・運用するファンドの多くは、藍澤證券(株)が販売会社となっております。

当社は、経営の意思決定と業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名のうち2名を社外監査役とすることで経営への監視を強化しております。また、社外監査役2名による監査が実施されることによりコーポレート・ガバナンスにおいて外部からの客観的、中立の経営監視が十分に機能する体制作りを行っております。

八 社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、取締役会や監査役会における内部監査や会計監査人監査結果の報告を受けることにより業務執行の監督又は監査を行い、内部監査室及び会計監査人との相互連携を図っております。また、内部統制担当部門である総合企画室が社外監査役担当セクションとなり、取締役会の開催などに関する事前の資料配布や場合によっては事前説明などを行い、円滑に取締役会に臨めるためのサポートをしております。

役員報酬等

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	6	6	-	-	-	3
監査役 (社外監査役を除く。)	5	5	-	-	-	1
社外役員	1	1	-	-	-	1

ロ 役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である役員が存在しないため、記載しておりません。

ハ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役及び監査役の報酬額については、平成22年2月25日開催の第1回定時株主総会において、取締役の報酬限度額を年額500百万円以内、監査役の報酬限度額を年額50百万円以内と定めております。

株式の保有状況

当社及び連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額（投資株式計上額）が最も大きい会社（最大保有会社）である(株)ファンドクリエーションについては以下のとおりであります。

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 4銘柄
貸借対照表計上額の合計額 59百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

（前事業年度）

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
丸八証券(株)	410,000	24	業務上の取引関係等の維持・強化の為
藍澤證券(株)	100,000	14	同上
(株)ファインキューブ	87	4	同上

（当事業年度）

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
丸八証券(株)	410,000	19	業務上の取引関係等の維持・強化の為
藍澤證券(株)	100,000	15	同上
(株)ファインキューブ	87	4	同上
(株)西京銀行	70,000	20	同上

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに

当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役は6名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。なお、取締役の選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

中間配当の決定機関

当社は、取締役会の決議により、毎年5月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主もしくは登録株式質権者に対して、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当を行うことができる旨を定款で定めております。これは、中間配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的としております。

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的としております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	21	-	20	-
連結子会社	6	-	4	-
計	28	-	25	-

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度(自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度(自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

前連結会計年度(自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)

監査日数等を勘案したうえで決定しております。

当連結会計年度(自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)

監査日数等を勘案したうえで決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成21年12月1日から平成22年11月30日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成22年12月1日から平成23年11月30日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成21年12月1日から平成22年11月30日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成22年12月1日から平成23年11月30日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成21年12月1日から平成22年11月30日まで)及び当連結会計年度(平成22年12月1日から平成23年11月30日まで)の連結財務諸表並びに前事業年度(平成21年12月1日から平成22年11月30日まで)及び当事業年度(平成22年12月1日から平成23年11月30日まで)の財務諸表について清和監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っています。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等に適切に対応するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、また、監査法人等が主催する研修等に積極的に参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年11月30日)	当連結会計年度 (平成23年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,302	1,027
売掛金	86	68
未収入金	-	464
有価証券	15	10
営業投資有価証券	10	8
販売用不動産	4,278	4,218
仕掛販売用不動産	2,330	2,330
繰延税金資産	0	2
その他	137	16
流動資産合計	8,161	8,147
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	47	16
減価償却累計額	20	2
建物及び構築物(純額)	27	14
工具、器具及び備品	43	33
減価償却累計額	27	19
工具、器具及び備品(純額)	16	13
有形固定資産合計	43	27
無形固定資産		
その他	3	1
無形固定資産合計	3	1
投資その他の資産		
投資有価証券	408	362
敷金及び保証金	145	71
破産更生債権等	660	657
繰延税金資産	-	0
その他	18	17
貸倒引当金	660	657
投資その他の資産合計	572	451
固定資産合計	618	481
資産合計	8,780	8,629

	前連結会計年度 (平成22年11月30日)	当連結会計年度 (平成23年11月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1 1,982	1 1,850
1年内返済予定の長期借入金	1 3,925	1 3,885
1年内償還予定の新株予約権付社債	-	250
未払金	34	27
未払法人税等	14	38
繰延税金負債	-	0
その他	46	61
流動負債合計	6,002	6,113
固定負債		
新株予約権付社債	400	-
長期未払金	1 1,188	1 1,150
繰延税金負債	15	1
その他	37	35
固定負債合計	1,641	1,187
負債合計	7,643	7,301
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,056	1,131
資本剰余金	534	609
利益剰余金	465	399
自己株式	15	15
株主資本合計	1,109	1,326
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21	0
為替換算調整勘定	2	2
その他の包括利益累計額合計	19	1
少数株主持分	7	3
純資産合計	1,136	1,328
負債純資産合計	8,780	8,629

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
売上高		
不動産売上高	1,157	458
受取手数料等	702	384
売上高合計	1,859	842
売上原価		
不動産売上原価	¹ 1,225	194
支払手数料等	75	20
売上原価合計	1,301	214
売上総利益	557	627
販売費及び一般管理費	² 742	¹ 598
営業利益又は営業損失()	184	29
営業外収益		
受取利息	3	0
受取配当金	23	39
有価証券運用益	17	-
投資有価証券売却益	139	-
受取家賃	9	2
保険解約返戻金	-	43
その他	4	2
営業外収益合計	197	88
営業外費用		
支払利息	129	131
株式交付費	1	2
支払手数料	0	-
為替差損	1	2
その他	0	12
営業外費用合計	134	148
経常損失()	121	31
特別利益		
関係会社株式売却益	-	216
その他	0	-
特別利益合計	0	216
特別損失		
関係会社株式売却損	8	-
投資有価証券償還損	13	-
固定資産除却損	-	24
事務所移転費用	-	24
債権回収不能損失	-	23
その他	2	3
特別損失合計	25	74
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	146	110
法人税、住民税及び事業税	23	46
過年度法人税等戻入額	7	-
法人税等調整額	1	2
法人税等合計	17	44

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	-	66
少数株主損失()	6	0
当期純利益又は当期純損失()	157	66

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	-	66
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	20
為替換算調整勘定	-	0
その他の包括利益合計	-	21
包括利益	-	44
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	-	44
少数株主に係る包括利益	-	0

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,000	1,056
当期変動額		
新株の発行	56	75
当期変動額合計	56	75
当期末残高	1,056	1,131
資本剰余金		
前期末残高	478	534
当期変動額		
新株の発行	56	75
当期変動額合計	56	75
当期末残高	534	609
利益剰余金		
前期末残高	307	465
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失()	157	66
連結子会社の減少による減少	0	-
当期変動額合計	158	66
当期末残高	465	399
自己株式		
前期末残高	15	15
当期末残高	15	15
株主資本合計		
前期末残高	1,155	1,109
当期変動額		
新株の発行	112	150
当期純利益又は当期純損失()	157	66
連結子会社の減少による減少	0	-
当期変動額合計	45	216
当期末残高	1,109	1,326

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	27	21
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6	20
当期変動額合計	6	20
当期末残高	21	0
為替換算調整勘定		
前期末残高	1	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	2	2
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	25	19
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6	21
当期変動額合計	6	21
当期末残高	19	1
少数株主持分		
前期末残高	14	7
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6	3
当期変動額合計	6	3
当期末残高	7	3
純資産合計		
前期末残高	1,195	1,136
当期変動額		
新株の発行	112	150
当期純利益又は当期純損失（ ）	157	66
連結子会社の減少による減少	0	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	13	24
当期変動額合計	58	191
当期末残高	1,136	1,328

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	146	110
減価償却費	82	95
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	2
受取利息及び受取配当金	24	40
支払利息	129	131
固定資産除却損	-	24
為替差損益(は益)	3	2
関係会社株式売却損益(は益)	8	216
投資有価証券償還損益(は益)	13	-
投資有価証券売却損益(は益)	139	-
売上債権の増減額(は増加)	88	12
有価証券の増減額(は増加)	3	5
営業投資有価証券の増減額(は増加)	36	4
その他関係会社有価証券の増減額(は増加)	-	2
たな卸資産の増減額(は増加)	1,020	25
前払費用の増減額(は増加)	3	7
未収入金の増減額(は増加)	1	6
未払消費税等の増減額(は減少)	3	2
未払金の増減額(は減少)	40	40
その他	3	59
小計	1,115	24
利息及び配当金の受取額	22	40
利息の支払額	140	132
法人税等の支払額	37	18
営業活動によるキャッシュ・フロー	959	135
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	-	15
投資有価証券の売却による収入	362	-
投資有価証券の取得による支出	300	21
連結の範囲の変更を伴う関係会社株式の売却による収入及び匿名組合契約終了による支出	2 1	2 273
連結の範囲の変更を伴う匿名組合出資持分の取得による支出	-	3 369
連結の範囲の変更を伴う匿名組合出資持分の譲渡による支出	-	4 1
その他関係会社有価証券の増減額(は増加)	9	1
担保差入解除による定期預金受入収入	-	100
敷金の回収による収入	-	104
敷金及び保証金の差入による支出	-	40
短期貸付けによる支出	400	-
短期貸付金の回収による収入	313	100
長期貸付金の回収による収入	41	-
その他	3	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	5	135

	前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	978	131
1年内返済予定の長期借入金の返済による支出	32	39
株式の発行による収入	112	-
その他	3	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	900	173
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	2
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	61	175
現金及び現金同等物の期首残高	1,041	1,102
現金及び現金同等物の期末残高	1,102	927

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数10社 主要な連結子会社名 (株)ファンドクリエーション ファンドクリエーション不動産投信(株) FC Investment Ltd. (株)FCインベストメント・アドバイザーズ 上海創喜投資諮詢有限公司 FCパートナーズ(株) ファンドクリエーション・アール・エム(株) セドル・プロパティ(同) ペトリュス・プロパティ(同) FC-STファンド投資事業有限責任組合</p> <p>ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の全株式は平成21年12月11日付で売却したため、当連結会計年度は連結の範囲から除外しております。</p> <p>オーブリーオン・プロパティ(同)は平成22年5月31日付で匿名組合出資を終了したため、平成22年5月31日までの損益計算書を連結しております。</p> <p>(2) 非連結子会社名 (有)ヘラクレス・プロパティ(連結の範囲から除いた理由) (有)ヘラクレス・プロパティの株式及び匿名組合出資持分を平成22年4月30日に取得しておりますが、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性が無いため連結の範囲からは除外しております。</p>	<p>(1) 連結子会社の数9社 連結子会社名 (株)ファンドクリエーション ファンドクリエーション・アール・エム(株) (株)FCインベストメント・アドバイザーズ FCパートナーズ(株) FC Investment Ltd. 上海創喜投資諮詢有限公司 セドル・プロパティ(同) ペトリュス・プロパティ(同) FC-STファンド投資事業有限責任組合</p> <p>ファンドクリエーション不動産投信(株)は全株式を平成23年8月15日付で売却したため、平成23年7月31日までの損益計算書を連結に含めております。</p> <p>(株)ファンドクリエーションは、(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分を平成22年12月17日付で取得し連結の範囲に含めておりましたが、平成23年11月30日付で匿名組合出資持分の全てを譲渡したため、平成23年11月30日までの損益計算書を連結に含めております。</p> <p>(2) 非連結子会社名 (有)ヘラクレス・プロパティ(連結の範囲から除いた理由) (有)ヘラクレス・プロパティは、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性が無いため連結の範囲からは除外しております。</p>
2. 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>連結子会社のうち、FC Investment Ltd. は8月31日、ファンドクリエーション不動産投信(株)は3月31日、上海創喜投資諮詢有限公司は12月31日、セドル・プロパティ(同)は2月末日、ペトリュス・プロパティ(同)は8月31日、FC-ST投資事業有限責任組合は8月31日が決算日であります。連結財務諸表の作成に当たって、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は連結決算日と一致しております。</p>	<p>連結子会社のうち、FC Investment Ltd.、ペトリュス・プロパティ(同)及びFC-ST投資事業有限責任組合は8月31日、上海創喜投資諮詢有限公司は12月31日、セドル・プロパティ(同)は2月末日が決算日であります。連結財務諸表の作成に当たって、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は連結決算日と一致しております。</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)
<p>3. 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p>	<p>イ 売買目的有価証券 時価法(売却原価は移動平均法により算定)</p> <p>ロ その他有価証券(営業投資有価証券を含む) 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。</p> <p>時価のないもの 移動平均法に基づく原価法</p> <p>ハ たな卸資産 販売用不動産及び仕掛販売用不動産(不動産信託受益権を含む) 個別法による原価法(連結貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。 販売用不動産に係る減価償却費を不動産等売上原価に計上しております。 なお、販売用不動産及び仕掛販売用不動産(不動産信託受益権を含む)については不動産鑑定士による鑑定評価額等を基準に市場の状況を反映した評価を行っております。 また、当該資産の主な耐用年数は31～47年であります。</p>	<p>イ 売買目的有価証券 同左</p> <p>ロ その他有価証券(営業投資有価証券を含む) 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p> <p>ハ たな卸資産 販売用不動産及び仕掛販売用不動産(不動産信託受益権を含む) 同左</p>
<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p>	<p>イ 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法を採用しております。 ただし、建物及び構築物(附属設備を除く)は定額法によっております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 建物及び構築物 6～30年 工具器具及び備品 3～20年</p> <p>ロ 無形固定資産(リース資産を除く) ソフトウェア 社内における使用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p>	<p>イ 有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>ロ 無形固定資産(リース資産を除く) ソフトウェア 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)
(3) 重要な繰延資産の処理方法	株式交付費 支出時に全額費用としております。	株式交付費 同左
(4) 重要な引当金の計上基準	貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、当社及び国内連結子会社は、一般債権については貸倒実績率により、また貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。	貸倒引当金 同左
(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準	外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産又は負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。	同左
(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	イ 消費税等の会計処理 同左 ロ 連結納税制度の適用 当連結会計年度から連結納税制度を適用しております。
(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲		手許現金及び随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
4. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	
5. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金及び随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
<p>1. 連結の範囲に関する事項の変更</p> <p>ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の全株式を平成21年12月11日付で売却したため、当連結会計年度は連結の範囲から除外しております。</p> <p>オープリオン・プロパティ(同)は平成22年5月31日で匿名組合出資を終了したため、平成22年5月31日までの損益計算書を連結しております。</p> <p>(有)ヘラクレス・プロパティの株式及び匿名組合出資持分を平成22年4月30日に取得しておりますが、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性が無いため連結の範囲からは除外しております。</p> <p>2. 会計処理基準に関する事項の変更</p>	<p>1. 連結の範囲に関する事項の変更</p> <p>ファンドクリエーション不動産投信(株)の全株式を平成23年8月15日付で売却したため、当連結会計年度は平成23年7月31日までの損益計算書を連結に含めております。</p> <p>(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分を平成22年12月17日付で取得し連結の範囲に含めておりましたが、平成23年11月30日付で匿名組合出資持分の全てを譲渡したため、平成23年11月30日までの損益計算書を連結に含めております。</p> <p>2. 会計処理基準に関する事項の変更 (企業結合に関する会計基準等の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。</p> <p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) _</p> <p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。なお、これによる損益に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
	<p>(連結貸借対照表)</p> <p>前連結会計年度の流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「未収入金」は、当連結会計年度において、資産の総額の100分の5を超えたため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「未収入金」は、2百万円であります。</p> <p>(連結損益計算書)</p> <p>当連結会計年度より「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>前連結会計年度の特別損失の「その他」に含めて表示しておりました「固定資産除却損」は、当連結会計年度において、特別損失の総額の100分の10を超えたため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「固定資産除却損」は、0百万円であります。</p>

【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
<p>(金融商品に関する会計基準の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。</p>	<p>(包括利益の表示に関する会計基準の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用しております。</p> <p>ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p> <p>(連結納税制度の適用)</p> <p>当連結会計年度より、連結納税制度を適用していません。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年11月30日)	当連結会計年度 (平成23年11月30日)																																
<p>1. 担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>200百万円</td> </tr> <tr> <td>販売用不動産</td> <td>4,278百万円</td> </tr> <tr> <td>仕掛販売用不動産</td> <td>2,330百万円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>短期借入金</td> <td>1,982百万円</td> </tr> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td>3,919百万円</td> </tr> <tr> <td>長期未払金</td> <td>1,188百万円</td> </tr> </table> <p>2. 非連結子会社の株式及び非連結会社に対する出資金 投資その他の資産・その他に含まれる非連結子会社 関連の資産は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>関連会社株式</td> <td>2百万円</td> </tr> <tr> <td>その他関係会社有価証券</td> <td>8百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金	200百万円	販売用不動産	4,278百万円	仕掛販売用不動産	2,330百万円	短期借入金	1,982百万円	1年内返済予定の長期借入金	3,919百万円	長期未払金	1,188百万円	関連会社株式	2百万円	その他関係会社有価証券	8百万円	<p>1. 担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>100百万円</td> </tr> <tr> <td>販売用不動産</td> <td>4,218百万円</td> </tr> <tr> <td>仕掛販売用不動産</td> <td>2,330百万円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>短期借入金</td> <td>1,850百万円</td> </tr> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td>3,885百万円</td> </tr> <tr> <td>長期未払金</td> <td>1,150百万円</td> </tr> </table> <p>2. 非連結子会社の株式及び非連結会社に対する出資金 投資その他の資産・その他に含まれる非連結子会社 関連の資産は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>関連会社株式</td> <td>2百万円</td> </tr> <tr> <td>その他関係会社有価証券</td> <td>7百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金	100百万円	販売用不動産	4,218百万円	仕掛販売用不動産	2,330百万円	短期借入金	1,850百万円	1年内返済予定の長期借入金	3,885百万円	長期未払金	1,150百万円	関連会社株式	2百万円	その他関係会社有価証券	7百万円
現金及び預金	200百万円																																
販売用不動産	4,278百万円																																
仕掛販売用不動産	2,330百万円																																
短期借入金	1,982百万円																																
1年内返済予定の長期借入金	3,919百万円																																
長期未払金	1,188百万円																																
関連会社株式	2百万円																																
その他関係会社有価証券	8百万円																																
現金及び預金	100百万円																																
販売用不動産	4,218百万円																																
仕掛販売用不動産	2,330百万円																																
短期借入金	1,850百万円																																
1年内返済予定の長期借入金	3,885百万円																																
長期未払金	1,150百万円																																
関連会社株式	2百万円																																
その他関係会社有価証券	7百万円																																

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)												
<p>1. 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は30百万円であります。</p> <p>2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>給与手当</td> <td>306百万円</td> </tr> <tr> <td>地代家賃</td> <td>103百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手数料</td> <td>83百万円</td> </tr> </table>	給与手当	306百万円	地代家賃	103百万円	支払手数料	83百万円	<p>1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>給与手当</td> <td>275百万円</td> </tr> <tr> <td>地代家賃</td> <td>70百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手数料</td> <td>69百万円</td> </tr> </table>	給与手当	275百万円	地代家賃	70百万円	支払手数料	69百万円
給与手当	306百万円												
地代家賃	103百万円												
支払手数料	83百万円												
給与手当	275百万円												
地代家賃	70百万円												
支払手数料	69百万円												

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益	
親会社株主に係る包括利益	163 百万円
少数株主に係る包括利益	6
計	170

2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	6 百万円
為替換算調整勘定	0
計	6

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	33,588,800	2,050,000	-	35,638,800
合計	33,588,800	2,050,000	-	35,638,800
自己株式				
普通株式	277,500	-	-	277,500
合計	277,500	-	-	277,500

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加は、平成22年5月12日付の第三者割当増資によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第1回新株予約権(注)1	普通株式	134,000	-	120,000	14,000	-
提出会社	第2回新株予約権(注)1	普通株式	540,000	-	86,000	454,000	-
提出会社	第3回新株予約権(注)1	普通株式	148,000	-	-	148,000	-
提出会社	第4回新株予約権(注)1	普通株式	250,000	-	10,000	240,000	-
提出会社	第1回無担保転換社債型 新株予約権付社債	普通株式	3,809,523 (注)2	-	-	3,809,523 (注)2	400
	合計	-	4,881,523	-	216,000	4,665,523	400

(注) 1. 平成21年5月1日付で実施された株式移転により当社の完全子会社となった(株)ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として交付したものであります。なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(株)ファンドクリエーション)の株主総会にて承認されました。

2. 新株予約権の目的となる株式の数は、当連結会計年度末における転換価額で算出される最大整数であります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式（注）	35,638,800	1,428,571	-	37,067,371
合計	35,638,800	1,428,571	-	37,067,371
自己株式				
普通株式	277,500	-	-	277,500
合計	277,500	-	-	277,500

（注）普通株式の発行済株式総数の増加は、平成23年8月22日付の株式会社ファンドクリエーショングループ第1回無担保転換型新株予約権付社債の新株予約権の行使によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （百万円）
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第1回新株予約権（注）1	普通株式	14,000	-	-	14,000	-
提出会社	第2回新株予約権（注）1	普通株式	454,000	-	-	454,000	-
提出会社	第3回新株予約権（注）1	普通株式	148,000	-	-	148,000	-
提出会社	第4回新株予約権（注）1	普通株式	240,000	-	10,000	230,000	-
提出会社	第1回無担保転換社債型 新株予約権付社債	普通株式	3,809,523 （注）2	-	1,428,571	2,380,952 （注）2	250
	合計	-	4,665,523	-	1,438,571	3,226,952	250

（注）1. 平成21年5月1日付で実施された株式移転により当社の完全子会社となった㈱ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として交付したものであります。なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社（㈱ファンドクリエーション）の株主総会にて承認されました。

2. 新株予約権の目的となる株式の数は、当連結会計年度末における転換価額で算出される最大整数であります。

（変動事由の概要）

第4回新株予約権の消却による減少 10,000株

第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使による減少 1,428,571株

3. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

該当事項はありません。

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)																																																																				
<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年11月30日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">1,302百万円</td> </tr> <tr> <td>担保差入定期預金</td> <td style="text-align: right;">200</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,102百万円</td> </tr> </table> <p>2. 株式の売却、匿名組合出資契約の終了により連結子会社から除外した会社の資産及び負債の主な内訳 ファンドクリエーション投信投資顧問(株)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">97百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">27</td> </tr> <tr> <td>売却による損失</td> <td style="text-align: right;">8</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の売却価額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">63</td> </tr> <tr> <td>ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">40</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引：ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の売却による収入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">22</td> </tr> </table> <p>オープリオン・プロパティ(同)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">21百万円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">20</td> </tr> <tr> <td>少数株主持分</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>オープリオン・プロパティ(同)の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">21</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">オープリオン・プロパティ(同)の匿名組合契約終了に伴う支出</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	1,302百万円	担保差入定期預金	200	現金及び現金同等物	1,102百万円	流動資産	97百万円	固定資産	2	流動負債	27	売却による損失	8	ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の売却価額	63	ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の現金及び現金同等物	40	差引：ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の売却による収入	22	流動資産	21百万円	流動負債	20	少数株主持分	0	オープリオン・プロパティ(同)の現金及び現金同等物	21	オープリオン・プロパティ(同)の匿名組合契約終了に伴う支出	21	<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年11月30日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">1,027百万円</td> </tr> <tr> <td>担保差入定期預金</td> <td style="text-align: right;">100</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">927百万円</td> </tr> </table> <p>2. 株式の売却、匿名組合出資契約の終了により連結子会社から除外した会社の資産及び負債の主な内訳 ファンドクリエーション不動産投信(株)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">238百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">58</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">14</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券評価差額</td> <td style="text-align: right;">16</td> </tr> <tr> <td>売却による利益</td> <td style="text-align: right;">216</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">ファンドクリエーション不動産投信(株)の売却価額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">482</td> </tr> <tr> <td>ファンドクリエーション不動産投信(株)の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">209</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引：ファンドクリエーション不動産投信(株)の売却による収入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">273</td> </tr> </table> <p>3. 匿名組合出資持分の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳 (有)ペローナ・プロパティ</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">450百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">15</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">8</td> </tr> <tr> <td>少数株主持分</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の取得価額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">422</td> </tr> <tr> <td>(有)ペローナ・プロパティの現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">52</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引：(有)ペローナ・プロパティの取得ための支出</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">369</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	1,027百万円	担保差入定期預金	100	現金及び現金同等物	927百万円	流動資産	238百万円	固定資産	58	流動負債	14	投資有価証券評価差額	16	売却による利益	216	ファンドクリエーション不動産投信(株)の売却価額	482	ファンドクリエーション不動産投信(株)の現金及び現金同等物	209	差引：ファンドクリエーション不動産投信(株)の売却による収入	273	流動資産	450百万円	固定資産	0	流動負債	15	固定負債	8	少数株主持分	3	(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の取得価額	422	(有)ペローナ・プロパティの現金及び現金同等物	52	差引：(有)ペローナ・プロパティの取得ための支出	369
現金及び預金勘定	1,302百万円																																																																				
担保差入定期預金	200																																																																				
現金及び現金同等物	1,102百万円																																																																				
流動資産	97百万円																																																																				
固定資産	2																																																																				
流動負債	27																																																																				
売却による損失	8																																																																				
ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の売却価額	63																																																																				
ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の現金及び現金同等物	40																																																																				
差引：ファンドクリエーション投信投資顧問(株)の売却による収入	22																																																																				
流動資産	21百万円																																																																				
流動負債	20																																																																				
少数株主持分	0																																																																				
オープリオン・プロパティ(同)の現金及び現金同等物	21																																																																				
オープリオン・プロパティ(同)の匿名組合契約終了に伴う支出	21																																																																				
現金及び預金勘定	1,027百万円																																																																				
担保差入定期預金	100																																																																				
現金及び現金同等物	927百万円																																																																				
流動資産	238百万円																																																																				
固定資産	58																																																																				
流動負債	14																																																																				
投資有価証券評価差額	16																																																																				
売却による利益	216																																																																				
ファンドクリエーション不動産投信(株)の売却価額	482																																																																				
ファンドクリエーション不動産投信(株)の現金及び現金同等物	209																																																																				
差引：ファンドクリエーション不動産投信(株)の売却による収入	273																																																																				
流動資産	450百万円																																																																				
固定資産	0																																																																				
流動負債	15																																																																				
固定負債	8																																																																				
少数株主持分	3																																																																				
(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の取得価額	422																																																																				
(有)ペローナ・プロパティの現金及び現金同等物	52																																																																				
差引：(有)ペローナ・プロパティの取得ための支出	369																																																																				

前連結会計年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)																																		
	<p>4. 匿名組合出資持分の譲渡により連結子会社から除外となった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p>(有)ペローナ・プロパティ</p> <table border="0"> <tr> <td>流動資産</td> <td style="text-align: right;">446百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">17</td> </tr> <tr> <td>少数株主持分</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td>売却による利益</td> <td style="text-align: right;">78</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の譲渡価額</td> <td style="text-align: right;">500</td> </tr> <tr> <td>(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分譲渡代金の未収入金</td> <td style="text-align: right;">450</td> </tr> <tr> <td>(有)ペローナ・プロパティの現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">51</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>差引：(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の譲渡による支出</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> </table> <p>5. 社債の償還と引換えによる新株予約権付社債に付された新株予約権の行使</p> <table border="0"> <tr> <td>新株予約権付社債に付された新株予約権の行使による資本金増加額</td> <td style="text-align: right;">75百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td>新株予約権付社債に付された新株予約権の行使による資本準備金増加額</td> <td style="text-align: right;">75百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>新株予約権の行使による新株予約権付社債の減少額</td> <td style="text-align: right;">150百万円</td> </tr> </table>	流動資産	446百万円	固定資産	0	流動負債	3	固定負債	17	少数株主持分	3	売却による利益	78	<hr/>		(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の譲渡価額	500	(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分譲渡代金の未収入金	450	(有)ペローナ・プロパティの現金及び現金同等物	51	<hr/>		差引：(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の譲渡による支出	1	新株予約権付社債に付された新株予約権の行使による資本金増加額	75百万円	 		新株予約権付社債に付された新株予約権の行使による資本準備金増加額	75百万円	<hr/>		新株予約権の行使による新株予約権付社債の減少額	150百万円
流動資産	446百万円																																		
固定資産	0																																		
流動負債	3																																		
固定負債	17																																		
少数株主持分	3																																		
売却による利益	78																																		
<hr/>																																			
(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の譲渡価額	500																																		
(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分譲渡代金の未収入金	450																																		
(有)ペローナ・プロパティの現金及び現金同等物	51																																		
<hr/>																																			
差引：(有)ペローナ・プロパティの匿名組合出資持分の譲渡による支出	1																																		
新株予約権付社債に付された新株予約権の行使による資本金増加額	75百万円																																		
新株予約権付社債に付された新株予約権の行使による資本準備金増加額	75百万円																																		
<hr/>																																			
新株予約権の行使による新株予約権付社債の減少額	150百万円																																		

(リース取引関係)

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

(1)金融商品の状況に関する事項

金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余裕資金は、安全性の高い金融資産で運用し、事業資金は銀行借入又は社債発行等により調達しております。デリバティブは、資金の借入・運用等に係るいわゆる市場リスク(為替相場変動リスク及び借入金金利変動リスク)を回避するために利用し、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針であります。

金融商品の内容及びそのリスク

売掛金は、取引先の信用リスクに晒されております。有価証券及び営業投資有価証券並びに投資有価証券は、売買目的、投資目的、業務上の関係を有する企業の株式等であり、発行体の信用リスク又は市場価格の変動リスクに晒されております。未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であり、長期未払金は建築工事代金で約定弁済と販売用不動産の売却代金をもって弁済されるものであります。借入金及び新株予約権付社債は、主に不動産投資及び事業再編等に必要な資金の調達を目的としたものであり、新株予約権付社債の満期償還日は決算日後、1年8ヶ月後であります。なお、デリバティブ取引は、行っておりません。

金融商品に係るリスク管理体制

当社グループは、「リスクマネジメント基本規程」等社内規程に基づきグループ全体のリスク管理を統括するとともに法令等の遵守を徹底した業務運営を目指すコンプライアンス委員会等を通じてリスクに関する諸問題の解決・改善を図る体制を敷いております。

イ.信用リスクの管理

取引先の倒産や信用状況の悪化等により、営業債権や貸付金などの元本や利息の価値が減少ないし消失することにより損失を被るリスクをいい、信用リスクに対する当社グループの管理は以下のとおりであります。

・営業債権及び貸付金等

「経理規程」及び各部門の各業務管理規程等に従い、管理部及び各部門が必要に応じ取引先の調査及び分析、未回収額の迅速な原因分析を行い、信用リスクの軽減を図っております。

・有価証券、営業投資有価証券、投資有価証券

管理部が担当部門と連携して時価や市況、発行体(主として取引先企業)の財務状況等を把握し、市場価格のある有価証券等については毎月開催の定例取締役会において報告しております。

・デリバティブ取引

デリバティブ取引は行っておりません。

ロ.市場リスクの管理

為替、金利、有価証券等の市場要因が変動することにより、資産・負債の価値が変動して損失を被るリスクをいい、市場リスクに対する当社グループの管理は以下のとおりであります。

・為替リスク

外貨建ての預金及び営業債権・債務残高は僅少のため、為替リスクを管理する重要性は低く、今後、その重要性が高まってきた場合には、先物為替予約等を利用しヘッジします。

・金利リスク

原則として固定金利により資金調達しますが、変動金利での資金調達を行った場合は、金利スワップ取引を利用してヘッジします。

ハ.流動性リスクの管理

必要な資金確保が困難となることや通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいい、当社グループは、事業計画及び月次業績報告書等に基づき、管理部が資金繰り計画を作成・更新することにより、資金繰り状況を常に把握し、手元流動性を維持・確保しております。

金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

当連結会計年度末における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対 照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,302	1,302	-
(2) 売掛金	86	86	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	419	419	-
売買目的有価証券	15	15	-
其他有価証券	404	404	-
(4) 破産更生債権等	660	660	-
貸倒引当金(1)	660	660	-
差引金額	0	0	-
資産計	1,809	1,809	-
(1) 短期借入金	1,982	1,982	-
(2) 1年内返済予定の長期借入金	3,925	3,925	-
(3) 未払金	34	34	-
(4) 未払法人税等	14	14	-
(5) 新株予約権付社債	400	387	12
(6) 建設協力金(2)	20	18	1
負債計	6,376	6,362	13
デリバティブ取引	-	-	-

(1) 貸倒引当金は、破産更生債権等に対する回収不能見込額であります。

(2) 建設協力金は、連結貸借対照表の固定負債・その他に含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらは市場価格を有する株式及び債券は取引所の価格及びこれに準ずる価格によっております。

(4) 破産更生債権等

回収不能見込額として貸倒引当金を控除したものを時価としております。

負債

(1) 短期借入金、(2) 1年内返済予定の長期借入金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等
これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 新株予約権付社債

市場価格がないため、満期償還金額を当該社債の残存期間を考慮し国債の利回りに自社の信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6) 建設協力金

返還までの一定の期間毎のキャッシュ・フロー見積額を国債の利回りに自社の信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

該当事項はありません。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表金額
資産	
非上場株式(1)	14
子会社株式(1)	2
匿名組合出資金(1)	8
敷金及び保証金(2)	145
負債	
長期未払金(3)	1,188
受入敷金(返還時期が確定しないもの)(4)	17

(1) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難なため、「資産(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(2) 返還時期が特定できないため、残存期間の将来キャッシュ・フローの見積額を合理的に算定できず、時価の把握が極めて困難なため。

(3) 弁済時期が特定できないため、一定期間毎に区分した将来キャッシュ・フローの見積額を合理的に算定できず、時価の把握が極めて困難なため。

(4) 返還時期が特定できないため、残存期間の将来キャッシュ・フローの見積額を合理的に算定できず、時価の把握が極めて困難なため。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	1,302	-	-	-
売掛金	86	-	-	-
合計	1,389	-	-	-

(注4) 社債及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表、「社債明細表」及び「借入金等明細表」を参照してください。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当連結会計年度(自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)

(1) 金融商品の状況に関する事項

金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余裕資金は、安全性の高い金融資産で運用し、事業資金は銀行借入又は社債発行等により調達しております。デリバティブは、資金の借入・運用等に係るいわゆる市場リスク(為替相場変動リスク及び借入金金利変動リスク)を回避するために利用し、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針であります。

金融商品の内容及びそのリスク

売掛金、未収入金は、取引先の信用リスクに晒されております。有価証券及び営業投資有価証券並びに投資有価証券は、売買目的、投資目的、業務上の関係を有する企業の株式等であり、発行体の信用リスク又は市場価格の変動リスクに晒されております。未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であり、長期未払金は建築工事代金で約定弁済と販売用不動産の売却代金をもって弁済されるものであります。借入金及び新株予約権付社債は、主に不動産投資及び事業再編等に必要な資金の調達を目的としたものであり、新株予約権付社債の満期償還日は平成24年7月30日であります。なお、デリバティブ取引は、行っておりません。

金融商品に係るリスク管理体制

当社グループは、「リスクマネジメント基本規程」等社内規程に基づきグループ全体のリスク管理を統括するとともに法令等の遵守を徹底した業務運営を目指すコンプライアンス委員会等を通じてリスクに関する諸問題の解決・改善を図る体制を敷いております。

イ. 信用リスクの管理

取引先の倒産や信用状況の悪化等により、営業債権や貸付金などの元本や利息の価値が減少ないし消失することにより損失を被るリスクをいい、信用リスクに対する当社グループの管理は以下のとおりであります。

・ 営業債権及び貸付金等

「経理規程」及び各部門の各業務管理規程等に従い、管理部及び各部門が必要に応じ取引先の調査及び分析、未回収額の迅速な原因分析を行い、信用リスクの軽減を図っております。

・ 有価証券、営業投資有価証券、投資有価証券

管理部が担当部門と連携して時価や市況、発行体(主として取引先企業)の財務状況等を把握し、市場価格のある有価証券等については毎月開催の定例取締役会において報告しております。

・ デリバティブ取引

デリバティブ取引は行っておりません。

ロ. 市場リスクの管理

為替、金利、有価証券等の市場要因が変動することにより、資産・負債の価値が変動して損失を被るリスクをいい、市場リスクに対する当社グループの管理は以下のとおりであります。

・ 為替リスク

外貨建ての預金及び営業債権・債務残高は僅少のため、為替リスクを管理する重要性は低く、今後、その重要性が高まってきた場合には、先物為替予約等を利用しヘッジします。

・ 金利リスク

原則として固定金利により資金調達しますが、変動金利での資金調達を行った場合は、金利スワップ取引を利用してヘッジします。

ハ. 流動性リスクの管理

必要な資金確保が困難となることや通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいい、当社グループは、事業計画及び月次業績報告書等に基づき、管理部が資金繰り計画を作成・更新することにより、資金繰り状況を常に把握し、手元流動性を維持・確保しております。

金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

当連結会計年度末における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対 照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,027	1,027	-
(2) 売掛金	68	68	-
(3) 未収入金	464	464	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	353	353	-
売買目的有価証券	10	10	-
其他有価証券	343	343	-
(5) 破産更生債権等	657	657	-
貸倒引当金(1)	657	657	-
差引金額	0	0	-
資産計	1,914	1,914	-
(1) 短期借入金	1,850	1,850	-
(2) 1年内返済予定の長期借入金	3,885	3,885	-
(3) 未払金	27	27	-
(4) 未払法人税等	38	38	-
(5) 1年内償還予定の新株予約権 付社債	250	250	-
(6) 建設協力金(2)	18	17	1
負債計	6,069	6,068	1
デリバティブ取引	-	-	-

(1) 貸倒引当金は、破産更生債権等に対する回収不能見込額であります。

(2) 建設協力金は、連結貸借対照表の固定負債・その他に含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金、(3) 未収入金

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これら市場価格を有する株式及び債券は取引所の価格及びこれに準ずる価格によっております。

(5) 破産更生債権等

回収不能見込額として貸倒引当金を控除したものを時価としております。

負債

(1) 短期借入金、(2) 1年内返済予定の長期借入金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等、(5) 1年内償還予定の新株予約権付社債

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 建設協力金

返還までの一定の期間毎のキャッシュ・フロー見積額を国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

該当事項はありません。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表金額
資産	
非上場株式(1)	28
子会社株式(1)	2
匿名組合出資金(1)	7
敷金及び保証金(2)	71
負債	
長期未払金(3)	1,150
受入敷金(返還時期が確定しないもの)(4)	16

(1) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難なため、「資産(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(2) 返還時期が特定できないため、残存期間の将来キャッシュ・フローの見積額を合理的に算定できず、時価の把握が極めて困難なため。

(3) 弁済時期が特定できないため、一定期間毎に区分した将来キャッシュ・フローの見積額を合理的に算定できず、時価の把握が極めて困難なため。

(4) 返還時期が特定できないため、残存期間の将来キャッシュ・フローの見積額を合理的に算定できず、時価の把握が極めて困難なため。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	1,027	-	-	-
売掛金	68	-	-	-
未収入金	464	-	-	-
合計	1,560	-	-	-

(注4) 社債及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表、「社債明細表」及び「借入金等明細表」を参照ください。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年11月30日)

1. 売買目的有価証券

当連結会計年度の損益に含まれた評価差額(百万円)	
	3

2. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1)株式	38	29	9
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	365	332	33
	小計	404	362	42
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
	合計	404	362	42

3. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

(単位:百万円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	259	174	13
債券	-	-	-
その他	-	-	-
合計	259	174	13

(注) 減損処理に当たっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。また、時価のない有価証券については、その実質価値が著しく低下した場合に必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度（平成23年11月30日）

1. 売買目的有価証券

当連結会計年度の損益に含まれた評価差額（百万円）	5
--------------------------	---

2. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1)株式	24	20	3
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	301	301	0
	小計	325	321	4
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1)株式	15	15	0
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	2	2	0
	小計	17	18	0
	合計	343	339	3

3. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）

（単位：百万円）

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	4	0	-
債券	-	-	-
その他	-	-	-
合計	4	0	-

（注）減損処理に当たっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。また、時価のない有価証券については、その実質価値が著しく低下した場合に必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
	第1回 スtock・オプション
付与対象者の区分及び数	関係会社従業員 5名
ストック・オプション数	普通株式134,000株
付与日	平成16年10月19日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年5月1日～平成26年10月17日
権利行使条件	取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・退任もしくは資格喪失により、会社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは、権利行使することができない。 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は退職したときは、権利行使することができない。 その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによります。

(注) 1. 上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった(株)ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(株)ファンドクリエーション)の株主総会にて承認されました。

2. 付与日は(株)ファンドクリエーションにおける付与決議日であります。

会社名	提出会社
	第2回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 1名 関係会社役員及び関係会社従業員 14名 外部協力者 4名
ストック・オプション数	普通株式546,000株
付与日	平成17年9月30日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年5月1日～平成27年2月24日
権利行使条件	取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・退任もしくは資格喪失により、会社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは、権利行使することができない。 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は退職したときは、権利行使することができない。 その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによります。

- (注) 1．上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった(株)ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(株)ファンドクリエーション)の株主総会にて承認されました。
- 2．付与日は(株)ファンドクリエーションにおける付与決議日であります。

会社名	提出会社
	第3回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社監査役 1名 関係会社役員及び関係会社従業員 4名 外部協力者 1名
ストック・オプション数	普通株式148,000株
付与日	平成17年9月30日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年5月1日～平成27年9月27日
権利行使条件	取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・退任もしくは資格喪失により、会社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは権利行使することができない。 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は退職したときは権利行使することができない。 外部支援者たる新株予約権者が、会社との契約に基づく支援者でなくなったときは権利行使することができない。 その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによります。

(注) 1 . 上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった(株)ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(株)ファンドクリエーション)の株主総会にて承認されました。

2 . 付与日は(株)ファンドクリエーションにおける付与決議日であります。

会社名	提出会社
	第4回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 1名 関係会社役員及び関係会社従業員 11名
ストック・オプション数	普通株式250,000株
付与日	平成18年5月31日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年5月1日～平成27年9月27日
権利行使条件	取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・退任もしくは資格喪失により、会社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは権利行使することができない、従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は退職したときは権利行使することができない、 その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによります。

(注) 1 . 上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった(株)ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(株)ファンドクリエーションの株主総会にて承認されました。

2 . 付与日は(株)ファンドクリエーションにおける付与決議日であります。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

会社名	提出会社		
	第1回 ストック・オプション	同左 第2回 ストック・オプション	同左 第3回 ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	-	-	-
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	-	-	-
未確定残	-	-	-
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末 (注)	134,000	540,000	148,000
権利確定	-	-	-
権利行使	-	-	-
失効	120,000	86,000	-
未行使残	14,000	454,000	148,000

会社名	提出会社
	第4回 ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末 (注)	250,000
権利確定	-
権利行使	-
失効	10,000
未行使残	240,000

(注) 上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった㈱ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

単価情報

会社名	提出会社	同左	同左
	第1回 ストック・オプション	第2回 ストック・オプション	第3回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	100	195	195
行使時平均株価 (円)	-	-	-
公正な評価単価(付与日) (円)	-	-	-

会社名	提出会社
	第4回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	520
行使時平均株価 (円)	-
公正な評価単価(付与日) (円)	-

当連結会計年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
	第1回 スtock・オプション
付与対象者の区分及び数	関係会社従業員 5名
ストック・オプション数	普通株式134,000株
付与日	平成16年10月19日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年5月1日～平成26年10月17日
権利行使条件	取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・退任もしくは資格喪失により、会社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは、権利行使することができない。 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は退職したときは、権利行使することができない。 その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによります。

(注) 1. 上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった(株)ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(株)ファンドクリエーションの株主総会にて承認されました。

2. 付与日は(株)ファンドクリエーションにおける付与決議日であります。

会社名	提出会社
	第2回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 1名 関係会社役員及び関係会社従業員 14名 外部協力者 4名
ストック・オプション数	普通株式546,000株
付与日	平成17年9月30日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年5月1日～平成27年2月24日
権利行使条件	取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・退任もしくは資格喪失により、会社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは、権利行使することができない。 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は退職したときは、権利行使することができない。 その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによります。

(注) 1．上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった(株)ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(株)ファンドクリエーション)の株主総会にて承認されました。

2．付与日は(株)ファンドクリエーションにおける付与決議日であります。

会社名	提出会社
	第3回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社監査役 1名 関係会社役員及び関係会社従業員 4名 外部協力者 1名
ストック・オプション数	普通株式148,000株
付与日	平成17年9月30日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年5月1日～平成27年9月27日
権利行使条件	取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・退任もしくは資格喪失により、会社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは権利行使することができない。 従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は退職したときは権利行使することができない。 外部支援者たる新株予約権者が、会社との契約に基づく支援者でなくなったときは権利行使することができない。 その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによります。

(注) 1 . 上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった㈱ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(㈱ファンドクリエーション)の株主総会にて承認されました。

2 . 付与日は㈱ファンドクリエーションにおける付与決議日であります。

会社名	提出会社
	第4回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 1名 関係会社役員及び関係会社従業員 11名
ストック・オプション数	普通株式250,000株
付与日	平成18年5月31日
権利確定条件	付与日以降、権利行使期間まで権利行使条件を満たすことを要する。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成21年5月1日～平成27年9月27日
権利行使条件	取締役又は監査役たる新株予約権者が解任・退任もしくは資格喪失により、会社の取締役又は監査役たる地位を失ったときは権利行使することができない、従業員たる新株予約権者が懲戒処分により降格もしくは解雇されたとき、又は退職したときは権利行使することができない。 その他の条件については、新株予約権割当契約に定めるところによります。

(注) 1 . 上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった(株)ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

なお、当該株式移転計画は平成21年2月26日に開催された株式移転完全子会社(株)ファンドクリエーションの株主総会にて承認されました。

2 . 付与日は(株)ファンドクリエーションにおける付与決議日であります。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

会社名	提出会社		
	第1回 ストック・オプション	同左 第2回 ストック・オプション	同左 第3回 ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	-	-	-
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	-	-	-
未確定残	-	-	-
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末 (注)	14,000	454,000	148,000
権利確定	-	-	-
権利行使	-	-	-
失効	-	-	-
未行使残	14,000	454,000	148,000

会社名	提出会社	
	第4回 ストック・オプション	
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	-	
付与	-	
失効	-	
権利確定	-	
未確定残	-	
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末 (注)	240,000	
権利確定	-	
権利行使	-	
失効	10,000	
未行使残	230,000	

(注) 上記は、平成21年5月1日の株式移転により当社の完全子会社となった㈱ファンドクリエーションの会社法第773条に定める株式移転計画新株予約権に代わる新株予約権として平成21年5月1日に交付したものであります。

単価情報

会社名	提出会社	同左	同左
	第1回 ストック・オプション	第2回 ストック・オプション	第3回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	100	195	195
行使時平均株価 (円)	-	-	-
公正な評価単価(付与日) (円)	-	-	-

会社名	提出会社
	第4回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	520
行使時平均株価 (円)	-
公正な評価単価(付与日) (円)	-

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)																																																																												
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>税務上の繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">1,859百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">2</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額否認</td><td style="text-align: right;">278</td></tr> <tr><td>販売用不動産評価損否認</td><td style="text-align: right;">81</td></tr> <tr><td>減価償却費損金算入限度額超過額</td><td style="text-align: right;">29</td></tr> <tr><td>営業投資有価証券評価減否認</td><td style="text-align: right;">87</td></tr> <tr><td>その他関係会社有価証券評価減否認</td><td style="text-align: right;">142</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価減否認</td><td style="text-align: right;">61</td></tr> <tr><td>営業権償却費否認</td><td style="text-align: right;">15</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">3</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,560</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">2,559</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">0</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td> その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">15</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">15</td></tr> <tr><td>繰延税金負債の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">14</td></tr> </table> <p>繰延税金負債の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">15</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>税金等調整前当期純損失()を計上しているため、記載を省略しております。</p>	税務上の繰越欠損金	1,859百万円	未払事業税	2	貸倒引当金繰入額否認	278	販売用不動産評価損否認	81	減価償却費損金算入限度額超過額	29	営業投資有価証券評価減否認	87	その他関係会社有価証券評価減否認	142	投資有価証券評価減否認	61	営業権償却費否認	15	その他	3	繰延税金資産小計	2,560	評価性引当額	2,559	繰延税金資産合計	0	繰延税金負債		その他有価証券評価差額金	15	繰延税金負債合計	15	繰延税金負債の純額	14	流動資産 - 繰延税金資産	0	固定負債 - 繰延税金負債	15	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>税務上の繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">1,898百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額否認</td><td style="text-align: right;">275</td></tr> <tr><td>販売用不動産評価損否認</td><td style="text-align: right;">81</td></tr> <tr><td>減価償却費損金算入限度額超過額</td><td style="text-align: right;">38</td></tr> <tr><td>その他関係会社有価証券評価減否認</td><td style="text-align: right;">108</td></tr> <tr><td>営業権償却費否認</td><td style="text-align: right;">14</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">6</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,431</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">2,428</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td> その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">2</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">0</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">2</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>流動負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">1</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p> <p>3. 連結決算日後の法人税の税率等の変更</p> <p>「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、当社グループでは平成24年12月1日以降に開始する連結会計年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の40.69%から35.64%段階的に変更されます。なお、変更後の実効税率を当連結会計年度末に適用した場合の影響は軽微であります。</p>	税務上の繰越欠損金	1,898百万円	未払事業税	8	貸倒引当金繰入額否認	275	販売用不動産評価損否認	81	減価償却費損金算入限度額超過額	38	その他関係会社有価証券評価減否認	108	営業権償却費否認	14	その他	6	繰延税金資産小計	2,431	評価性引当額	2,428	繰延税金資産合計	3	繰延税金負債		その他有価証券評価差額金	2	繰延税金負債合計	2	繰延税金資産の純額	0	流動資産 - 繰延税金資産	2	固定資産 - 繰延税金資産	0	流動負債 - 繰延税金負債	0	固定負債 - 繰延税金負債	1
税務上の繰越欠損金	1,859百万円																																																																												
未払事業税	2																																																																												
貸倒引当金繰入額否認	278																																																																												
販売用不動産評価損否認	81																																																																												
減価償却費損金算入限度額超過額	29																																																																												
営業投資有価証券評価減否認	87																																																																												
その他関係会社有価証券評価減否認	142																																																																												
投資有価証券評価減否認	61																																																																												
営業権償却費否認	15																																																																												
その他	3																																																																												
繰延税金資産小計	2,560																																																																												
評価性引当額	2,559																																																																												
繰延税金資産合計	0																																																																												
繰延税金負債																																																																													
その他有価証券評価差額金	15																																																																												
繰延税金負債合計	15																																																																												
繰延税金負債の純額	14																																																																												
流動資産 - 繰延税金資産	0																																																																												
固定負債 - 繰延税金負債	15																																																																												
税務上の繰越欠損金	1,898百万円																																																																												
未払事業税	8																																																																												
貸倒引当金繰入額否認	275																																																																												
販売用不動産評価損否認	81																																																																												
減価償却費損金算入限度額超過額	38																																																																												
その他関係会社有価証券評価減否認	108																																																																												
営業権償却費否認	14																																																																												
その他	6																																																																												
繰延税金資産小計	2,431																																																																												
評価性引当額	2,428																																																																												
繰延税金資産合計	3																																																																												
繰延税金負債																																																																													
その他有価証券評価差額金	2																																																																												
繰延税金負債合計	2																																																																												
繰延税金資産の純額	0																																																																												
流動資産 - 繰延税金資産	2																																																																												
固定資産 - 繰延税金資産	0																																																																												
流動負債 - 繰延税金負債	0																																																																												
固定負債 - 繰延税金負債	1																																																																												

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

(子会社株式の譲渡)

1. 事業分離の概要

分離先企業の名称

いちごグループホールディングス(株)

分離した事業の内容

ファンドクリエーション不動産投信(株)が行っていたFCレジデンシャル投資法人の資産運用事業

事業分離を行った主な理由

FCレジデンシャル投資法人の更なる成長には資産運用規模の拡大が不可欠であると判断し、ファンドクリエーション不動産投信(株)の株式を譲渡することいたしました。また、この株式譲渡を契機に、FCレジデンシャル投資法人といちご投資法人は合併し新投資法人が設立されるため、不動産物件のパイプライン契約に基づき新投資法人への物件供給等を行っていくとともに、当社はいちごグループホールディングス(株)と包括業務提携契約を締結いたしましたので、今後、不動産事業及び証券事業において両社の強みを生かした共同事業、事業協力への取り組み、情報交換等を推進していくためであります。

事業分離日

平成23年8月15日

法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金としたファンドクリエーション不動産投信(株)の全株式の譲渡による事業譲渡

2. 実施した会計処理の概要

移転損益の金額

関係会社株式売却益 216百万円

移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産 238百万円

固定資産 58

資産合計 297

流動負債 14

負債合計 14

会計処理

ファンドクリエーション不動産投信(株)の株式の連結上の帳簿価額と受取対価との差額を関係会社株式売却益として特別利益に計上いたしました。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメントの名称

アセットマネジメント事業

4. 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高 84百万円

営業利益 5

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年11月30日)

当社グループは不動産賃貸借契約に基づく事務所等の一部に退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃貸資産については、現時点では移転計画もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

前連結会計年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

	アセットマネジメント事業 (百万円)	インベストメントバンク事業		計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
		不動産投資等部門 (百万円)	証券投資等部門 (百万円)			
・売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	647	1,157	55	1,859	0	1,859
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	25	-	-	25	25	-
計	672	1,157	55	1,885	25	1,859
営業費用	559	1,262	48	1,871	172	2,043
営業利益(又は営業損失())	112	105	6	13	198	184
・資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	1,001	6,686	97	7,786	994	8,780
減価償却費	1	75	0	76	6	82
資本的支出	1	0	-	1	-	1

(注) 1. 事業区分の方法

事業は主たる業務内容を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な役務提供

アセットマネジメント事業・・・不動産ファンド、証券ファンドに関わるアセットマネジメント、投資顧問業

インベストメントバンク事業

不動産投資等部門・・・不動産開発型SPC、不動産等所有SPCに対する匿名組合出資及び不動産

等の賃貸収入等

証券投資等部門・・・企業投資、金融商品仲介業など

3. 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は994百万円であり、その主なものは当社グループの余資運用資金であります。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日）

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計額及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前連結会計年度（自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日）

海外売上高は、いずれも連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

当連結会計年度（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。したがって、当社は事業目的またはサービスの内容等が概ね類似している各個別事業を「アセットマネジメント事業」と「インベストメントバンク事業」の2つに集約し、報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主要な内容は、次のとおりであります。

アセットマネジメント事業 --- 証券・不動産ファンドの組成・管理・運用及び不動産の受託運用等
 インベストメントバンク事業 --- 不動産物件への投資、上場企業・未上場企業への投資、金融商品仲介業務等

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は第三者間取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日）

	アセットマネジメント事業 (百万円)	インベストメントバンク事業		合計 (百万円)
		不動産投資等部門 (百万円)	証券投資等部門 (百万円)	
・売上高				
(1) 外部顧客に対する売上高	647	1,157	55	1,859
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	25	-	-	25
計	672	1,157	55	1,885
セグメント利益又は損失()	112	105	6	13
セグメント資産	1,001	6,686	97	7,786
・その他の項目				
減価償却費	1	75	0	76
有形固定資産の増加額(投資額)	1	0	-	1

当連結会計年度（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）

	アセットマ ネジメント 事業 (百万円)	インベストメントバンク 事業		合計 (百万円)
		不動産投資 等部門 (百万円)	証券投資等 部門 (百万円)	
・売上高				
(1) 外部顧客に対する売上高	366	458	18	842
(2) セグメント間の内部売上高又 は振替高	13	-	-	13
計	379	458	18	856
セグメント利益又は損失()	0	211	17	194
セグメント資産	645	7,106	91	7,843
・その他の項目				
減価償却費	1	88	0	89
有形固定資産及び無形固定資産の 増加額(投資額)	-	-	-	-

(注) 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

売上高	前連結会計年度(百万円)	当連結会計年度(百万円)
報告セグメント計	1,885	856
セグメント間取引消去	25	13
連結財務諸表の売上高	1,859	842

営業利益又は営業損失	前連結会計年度(百万円)	当連結会計年度(百万円)
報告セグメント計	13	194
セグメント間取引消去	90	64
全社費用(注)	288	229
連結財務諸表の営業利益又は営業損失()	184	29

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

資産	前連結会計年度(百万円)	当連結会計年度(百万円)
報告セグメント計	7,786	7,843
全社資産(注)	994	786
連結財務諸表の資産合計	8,780	8,629

(注) 全社資産は、主に当社グループの余資運用資金(現金及び預金)に係る資産等であります。

その他の項目	報告セグメント計 (百万円)		調整額 (百万円)		連結財務諸表計上額 (百万円)	
	前連結会 計年度	当連結会 計年度	前連結会 計年度	当連結会 計年度	前連結会 計年度	当連結会 計年度
減価償却費	76	89	6	5	82	95
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額(投資額)	1	-	-	15	1	15

(注)有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に当社グループの事務所の内装設備等であります。

【関連情報】

当連結会計年度(自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスごとの情報は「セグメント情報」に同様の記載をしているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(百万円)	関連するセグメント名
F C レジデンシャル投資法人	84	アセットマネジメント事業

(注) F C レジデンシャル投資法人は平成23年11月1日付でいちご不動産投資法人と合併し、いちご不動産投資法人に変更になっております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）
該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）
該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）
該当事項はありません。

（追加情報）

当連結会計年度（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）
当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日）

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合%	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	田島克洋	-	-	当社代表 取締役	(被所有) 直接39.74	新株予約権 付社債引受	新株予約権 付社債引受	400	新株予約 権付社債	400

(注) 取引条件及び取引条件の決定方法

第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 に記載しております。

当連結会計年度（自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日）

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合%	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	田島克洋	-	-	当社代表 取締役	(被所有) 直接38.20	新株予約権 付社債引受	新株予約権 付社債引受	-	1年内償 還予定の 新株予約 権付社債	250

(注) 取引条件及び取引条件の決定方法

第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 に記載しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合%	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
主要株主	(有)T's Holdings	東京都 港区	3	当社代表取 締役の資産 管理会社	(被所有) 直接13.05	匿名組合出 資持分譲渡	匿名組合出 資持分譲渡	500	未収入金	450

(注) 取引条件及び取引条件の決定方法

譲渡価額につきましては、不動産鑑定会社の作成した(有)ペローナ・プロパティが保有する不動産物件の価格証明書及び(株)ファンドクリエーションが作成した匿名組合出資の時価評価シートをもとに決定しております。また、本取引の決議に係る取締役会に先立って行われた不動産投資等投融资ボードにおいても、出席した外部委員である弁護士から、譲渡価額の算定根拠のみならず、本取引の目的・経緯等を総合的に検討した結果、本取引は妥当性を有するものと思料される旨の意見を入手しており、本取引は少数株主にとって不利益なものではないものと判断しております。

譲渡価額の決定方法につきましては、匿名組合出資持分の譲渡先である(有)T's Holdingsが、当社代表取締役の田島克洋が出資している資産管理会社であり、田島克洋及び当該会社が当社の発行済株式総数の過半数の株式を保有していることから、支配株主との利益相反取引に該当するため、(株)ファンドクリエーションの社内規程に従い、不動産投資等投融资ボードに外部委員として弁護士1名を加え、当該ボードにおける本取引に係る議案について田島克洋は議決権を有しないものとし、かつ、本取引を承認する旨の決議に係る(株)ファンドクリエーション取締役会においても、田島克洋は決議に参加せず審議及び決議を行っております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)		当連結会計年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)	
1株当たり純資産額	31.94円	1株当たり純資産額	36.00円
1株当たり当期純損失金額()	4.58円	1株当たり当期純利益金額	1.85円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失を計上しているため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)	当連結会計年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()		
当期純利益又は当期純損失()(百万円)	157	66
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失()(百万円)	157	66
期中平均株式数(株)	34,451,437	35,756,604
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(券面総額400百万円)及びストック・オプション第1回、第2回、第3回、第4回(新株予約権の株式数856,000株)	第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(券面総額250百万円)及びストック・オプション第1回、第2回、第3回、第4回(新株予約権の株式数846,000株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
株ファンドクリエーショングループ	第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(注)1.2.3	平成21年7月31日	400	250 (250)	-	なし	平成24年7月30日

(注)1.()内書は、1年以内の償還予定額であります。

2.連結決算日後5年以内における1年ごとの償還予定額は次のとおりであります。

1年以内(百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
250	-	-	-	-

3.新株予約権付社債に関する記載は次のとおりであります。

銘柄	第1回
発行すべき株式	普通株式
新株予約権の発行価額(円)	無償
株式の発行価格(円)	105
発行価額の総額(百万円)	400
新株予約権の行使により発行した株式の発行 価額の総額(百万円)	150
新株予約権の付与割合(%)	100%
新株予約権の行使期間	自平成21年8月3日 至平成24年7月30日

(注)1.なお、新株予約権を行使しようとする者の請求があるときは、その新株予約権が付せられた社債の全額の償還に代えて、新株予約権の行使に際して払込をなすべき額の全額の払込があったものとします。また、新株予約権が行使されたときには、当該請求があったものとみなします。

2.当社は平成22年4月6日開催の臨時取締役会にて「株式会社ファンドクリエーショングループ第1回無担保転換社債型新株予約権付社債」(以下「本新株予約権付社債」という。)の額面200百万円相当分(1,904,761株相当)を譲り受けすることができる権利を田島克洋がいちごトラストへ有償で付与することを承認することを決議しております。

3.当社は平成23年8月19日開催の臨時取締役会において田島克洋がいちごトラストに付与すること

が

できる本新株予約権付社債の額面200百万円相当分(1,904,761株相当)のうち額面150百万円相当分(1,428,571株相当)を譲渡することを承認しております。これを受けて田島克洋は平成23年8月22日付でいちごトラストへ本新株予約権付社債額面150百万円相当分(1,428,571株相当)を譲渡し、同日付いちごトラストは譲り受けた本新株予約権付社債全額を行使しております。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,982	1,850	1.9	-
1年内返済予定の長期借入金	3,925	3,885	2.0	-
その他有利子負債				
長期未払金	1,188	1,150	1.3	-
計	7,095	6,886	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期未払金については、返済期日が確定していないため記載しておりません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年12月1日 至平成23年2月28日	第2四半期 自平成23年3月1日 至平成23年5月31日	第3四半期 自平成23年6月1日 至平成23年8月31日	第4四半期 自平成23年9月1日 至平成23年11月30日
売上高(百万円)	168	203	187	285
税金等調整前四半期 純利益又は税金等調 整前四半期純損失金 額()(百万円)	124	45	209	70
四半期純利益又は四 半期純損失金額 ()(百万円)	125	47	170	68
1株当たり四半期純 利益又は四半期純損 失金額()(円)	3.55	1.36	4.81	1.87

2【財務諸表等】
 (1)【財務諸表】
 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年11月30日)	当事業年度 (平成23年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	131	193
売掛金	19	11
未収入金	-	26
前払費用	1	2
繰延税金資産	0	2
その他	0	0
流動資産合計	153	236
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	-	12
減価償却累計額	-	1
建物及び構築物(純額)	-	10
工具、器具及び備品	-	2
減価償却累計額	-	0
工具、器具及び備品(純額)	-	2
有形固定資産合計	-	13
無形固定資産		
ソフトウェア	2	1
無形固定資産合計	2	1
投資その他の資産		
投資有価証券	-	300
関係会社株式	2,033	1,779
敷金及び保証金	-	40
関係会社長期貸付金	5	21
繰延税金資産	2	3
貸倒引当金	5	21
投資その他の資産合計	2,035	2,123
固定資産合計	2,037	2,138
資産合計	2,190	2,374

	前事業年度 (平成22年11月30日)	当事業年度 (平成23年11月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	200	100
未払金	0	83
未払費用	0	15
未払法人税等	0	34
その他	0	1
1年内償還予定の新株予約権付社債	-	250
流動負債合計	202	484
固定負債		
新株予約権付社債	400	-
その他	-	37
固定負債合計	400	37
負債合計	602	522
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,056	1,131
資本剰余金		
資本準備金	534	609
資本剰余金合計	534	609
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	3	113
利益剰余金合計	3	113
株主資本合計	1,588	1,855
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	-	2
評価・換算差額等合計	-	2
純資産合計	1,588	1,852
負債純資産合計	2,190	2,374

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
営業収益		
営業収益	2 75	2 61
営業総利益	75	61
販売費及び一般管理費	1 69	1 77
営業利益又は営業損失()	6	16
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	-	11
受取家賃	-	2 17
その他	0	4
営業外収益合計	0	33
営業外費用		
支払利息	3	3
株式交付費	1	2
その他	0	3
営業外費用合計	5	8
経常利益	0	9
特別利益		
子会社株式売却益	-	228
特別利益合計	-	228
特別損失		
事務所移転費用	-	2
関係会社貸倒引当金繰入額	5	16
特別損失合計	5	18
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	5	219
法人税、住民税及び事業税	1	105
法人税等調整額	2	3
法人税等合計	0	102
当期純利益又は当期純損失()	4	117

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,000	1,056
当期変動額		
新株の発行	56	75
当期変動額合計	56	75
当期末残高	1,056	1,131
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	478	534
当期変動額		
新株の発行	56	75
当期変動額合計	56	75
当期末残高	534	609
資本剰余金合計		
前期末残高	478	534
当期変動額		
新株の発行	56	75
当期変動額合計	56	75
当期末残高	534	609
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
前期末残高	1	3
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失()	4	117
当期変動額合計	4	117
当期末残高	3	113
利益剰余金合計		
前期末残高	1	3
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失()	4	117
当期変動額合計	4	117
当期末残高	3	113
株主資本合計		
前期末残高	1,479	1,588
当期変動額		
新株の発行	112	150
当期純利益又は当期純損失()	4	117
当期変動額合計	108	267
当期末残高	1,588	1,855

	前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	2
当期変動額合計	-	2
当期末残高	-	2
評価・換算差額等合計		
前期末残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	2
当期変動額合計	-	2
当期末残高	-	2
純資産合計		
前期末残高	1,479	1,588
当期変動額		
新株の発行	112	150
当期純利益又は当期純損失（ ）	4	117
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	2
当期変動額合計	108	264
当期末残高	1,588	1,852

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	子会社株式及び関係会社株式 移動平均法に基づく原価法	イ. 子会社株式及び関係会社株式 同左 ロ. その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 評価差額は全部純資産直入法により 処理し、売却原価は移動平均法により 算定しております。 時価のないもの 移動平均法に基づく原価法
2. 固定資産の減価償却の方法	無形固定資産 ソフトウェア 社内における使用期間(5年)に基づ く定額法によっております。	イ. 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法を採用しております。 ただし、建物及び構築物(附属設備を除 く)は定額法によっております。 なお、主な耐用年数は以下の通りでありま す。 建物及び構築物 6~24年 工具、器具及び備品 3~15年 ロ. 無形固定資産 ソフトウェア(リース資産を除く) 同左
3. 繰延資産の処理方法	株式交付費 支出時に全額費用としております。	株式交付費 同左
4. 引当金の計上基準	貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、 当社は、一般債権については貸倒実績率 により、また貸倒懸念債権等特定の債権 については個別に回収可能性を勘案し、 回収不能見込額を計上しております。	貸倒引当金 同左
5. その他財務諸表作成の ための重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	イ. 消費税等の会計処理 同左 ロ. 連結納税制度の適用 当事業年度から連結納税制度を適用して おります。

【会計処理方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
	<p>(企業結合に関する会計基準等の適用) 当事業年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。</p> <p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。なお、これによる損益に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
	<p>(貸借対照表) 前事業年度の流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「未収入金」は、当事業年度において、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前事業年度の「未収入金」は、0百万円であります。</p>

【追加情報】

前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
	<p>(連結納税制度の適用) 当事業年度より、連結納税制度を適用しております。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年11月30日)	当事業年度 (平成23年11月30日)
	1. 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。
	流動資産
	売掛金 11百万円
	未収入金 19百万円
	前払費用 0百万円
	その他 0百万円
	流動負債
	未払金 82百万円
	固定負債
	その他 37百万円

(損益計算書関係)

前事業年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)	当事業年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)
1. 販売費及び一般管理費の内訳は、全てが一般管理費であります。 主要な費目及び金額は次のとおりであります。	1. 販売費及び一般管理費の内訳は、全てが一般管理費であります。 主要な費目及び金額は次のとおりであります。
役員報酬 13百万円	役員報酬 13百万円
出向者給与 10百万円	出向者給与 7百万円
地代家賃 5百万円	地代家賃 21百万円
保険料 3百万円	保険料 1百万円
支払手数料 17百万円	支払手数料 14百万円
広告宣伝費 9百万円	広告宣伝費 4百万円
2. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。	2. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。
関係会社からの経営指導料 75百万円	関係会社からの経営指導料 61百万円
出向者給与 10百万円	関係会社からの受取家賃 17百万円
	出向者給与 7百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

前事業年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年11月30日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額2,033百万円)は市場性がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

当事業年度(平成23年11月30日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額1,779百万円)は市場性がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (自平成21年12月1日 至平成22年11月30日)	当事業年度 (自平成22年12月1日 至平成23年11月30日)																						
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">繰延税金資産</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">貸倒引当金繰入額否認</td> <td style="text-align: right;">2百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2</td> </tr> </table>	繰延税金資産		貸倒引当金繰入額否認	2百万円	その他	0	繰延税金資産の純額	2	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">繰延税金資産</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払事業税</td> <td style="text-align: right;">8百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">貸倒引当金繰入額否認</td> <td style="text-align: right;">8</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">18</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">12</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6</td> </tr> </table>	繰延税金資産		未払事業税	8百万円	貸倒引当金繰入額否認	8	その他	1	繰延税金資産小計	18	評価性引当額	12	繰延税金資産の純額	6
繰延税金資産																							
貸倒引当金繰入額否認	2百万円																						
その他	0																						
繰延税金資産の純額	2																						
繰延税金資産																							
未払事業税	8百万円																						
貸倒引当金繰入額否認	8																						
その他	1																						
繰延税金資産小計	18																						
評価性引当額	12																						
繰延税金資産の純額	6																						
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>当期純損失であるため、記載を省略しております。</p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.69%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(調整)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">5.15%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">0.16%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">住民税均等割</td> <td style="text-align: right;">0.16%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">特定外国子会社課税留保金</td> <td style="text-align: right;">0.44%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">0.15%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">46.75%</td> </tr> </table>	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		法定実効税率	40.69%	(調整)		評価性引当額	5.15%	交際費等永久に損金に算入されない項目	0.16%	住民税均等割	0.16%	特定外国子会社課税留保金	0.44%	その他	0.15%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.75%				
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳																							
法定実効税率	40.69%																						
(調整)																							
評価性引当額	5.15%																						
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.16%																						
住民税均等割	0.16%																						
特定外国子会社課税留保金	0.44%																						
その他	0.15%																						
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.75%																						
	<p>3. 決算日後の法人税の税率等の変更</p> <p>「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、当社では平成24年12月1日以降に開始する事業年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の40.69%から35.64%に段階的に変更されます。</p> <p>なお、変更後の実効税率を当事業年度末に適用した場合の影響は軽微であります。</p>																						

(企業結合等関係)

前事業年度(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年12月1日至平成23年11月30日)

(子会社株式の譲渡)

1. 事業分離の概要

取引の概要

分離先企業の名称

いちごグループホールディングス㈱

分離した事業の内容

ファンドクリエーション不動産投信㈱が行っていたFCレジデンシャル投資法人の資産運用事業

事業分離を行った主な理由

FCレジデンシャル投資法人の更なる成長には資産運用規模の拡大が不可欠であると判断し、ファンドクリエーション不動産投信㈱の株式を譲渡することにいたしました。また、この株式譲渡を契機に、FCレジデンシャル投資法人といちご投資法人は合併し新投資法人が設立されるため、不動産物件のバイブライクン契約に基づき新投資法人への物件供給等を行っていくとともに、当社はいちごグループホールディングス㈱と包括業務提携契約を締結いたしましたので、今後、不動産事業及び証券事業において両社の強みを生かした共同事業、事業協力への取り組み、情報交換等を推進していくためであります。

事業分離日

平成23年8月15日

法的形式を含む取引の概要

受取対価を現金としたファンドクリエーション不動産投信㈱の全株式の譲渡による事業譲渡

2. 実施した会計処理の概要

移転損益の金額

関係会社株式売却益 228百万円

移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産 238百万円

固定資産 58

資産合計 297

流動負債 14

負債合計 14

会計処理

ファンドクリエーション不動産投信㈱の株式の帳簿価額と受取対価との差額を関係会社株式売却益として特別利益に計上いたしました。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメントの名称

アセットマネジメント事業

4. 当事業年度の損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

該当事項ありません。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年11月30日)

当社は不動産賃貸借契約に基づく事務所等の一部に退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃貸資産については、現時点では移転計画もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)		当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)	
1株当たり純資産額	44.56円	1株当たり純資産額	49.97円
1株当たり当期純損失金額()	0.12円	1株当たり当期純利益金額	3.25円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失()を計上しているため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成21年12月1日 至 平成22年11月30日)	当事業年度 (自 平成22年12月1日 至 平成23年11月30日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()		
当期純利益又は当期純損失()(百万円)	4	117
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失()	4	117
普通株式の期中平均株式数(株)	34,728,937	36,034,104
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(券面総額400百万円)及び ストック・オプション第1回、第2回、第3回、第4回(新株予約権の株式数856,000株)	第1回無担保転換社債型新株予約権付社債(券面総額250百万円)及びストック・オプション第1回、第2回、第3回、第4回(新株予約権の株式数846,000株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

該当事項はありません。

【債券】

該当事項はありません。

【その他】

投資 有価証券	有 その他 有価証券	種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
		(投資信託受益証券)J -プレミアムファンド	300,000,000	300
		計	300,000,000	300

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物及び構築物	-	12	-	12	1	1	10
工具、器具及び備品	-	2	-	2	0	0	2
有形固定資産計	-	15	-	15	2	2	13
無形固定資産							
ソフトウェア	2	-	-	2	0	0	1
無形固定資産計	2	-	-	2	0	0	1

(注) 有形固定資産の当期増加額は、主に当社グループの事務所の内装設備等であります。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	5	16	-	-	21

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ 現金及び預金

区分	金額(百万円)
普通預金	193
合計	193

ロ 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)ファンドクリエーション	7
ファンドクリエーション・アール・エム(株)	2
その他	0
合計	11

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) (A) + (D)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	2 (B) 365
19	64	72	11	86.7	85.5

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。また、売掛金の発生日は11月末日であるため、実質的な滞留期間はありません。

固定資産

関係会社株式

相手先	金額(百万円)
(株)ファンドクリエーション	1,478
ファンドクリエーション・アール・エム(株)	227
FC Investment Ltd.	55
FCパートナーズ(株)	17
(株)FCインベストメント・アドバイザーズ	0
合計	1,779

流動負債

イ 短期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)三井住友銀行	100
合計	100

ロ 1年内償還予定の新株予約権付社債

相手先	金額(百万円)
田島 克洋	250
合計	250

(注) 詳細は1連結財務諸表等(1)連結財務諸表 連結附属明細表 社債明細表に記載しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	12月1日から11月30日まで
定時株主総会	毎年2月
基準日	11月30日
剰余金の配当の基準日	5月31日 11月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告の方法により行う。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL： http://www.fc-group.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 臨時報告書

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。平成23年3月1日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書であります。平成23年8月15日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号及び第19号の規定に基づく臨時報告書であります。平成23年8月15日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第1項及び第2項第4号の規定に基づく臨時報告書であります。平成23年8月25日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書であります。平成23年12月5日関東財務局長に提出

(2) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第2期(自平成21年12月1日至平成22年11月30日)平成23年2月25日関東財務局長に提出

(3) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年2月25日関東財務局長に提出

(4) 四半期報告書及び確認書

第2期第1四半期(自平成22年12月1日至平成23年2月28日)平成23年4月14日関東財務局長に提出

第2期第2四半期(自平成23年3月1日至平成23年5月31日)平成23年7月15日関東財務局長に提出

第2期第3四半期(自平成23年6月1日至平成23年8月31日)平成23年10月14日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年2月22日

株式会社ファンドクリエーショングループ
取締役会 御中

清和監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 川田 増三

指定社員
業務執行社員 公認会計士 藤本 亮

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファンドクリエーショングループの平成21年12月1日から平成22年11月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ファンドクリエーショングループ及び連結子会社の平成22年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ファンドクリエーショングループの平成22年11月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ファンドクリエーショングループが平成22年11月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年2月23日

株式会社ファンドクリエーショングループ
取締役会 御中

清和監査法人

指定社員 公認会計士 川田 増三
業務執行社員

指定社員 公認会計士 藤本 亮
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファンドクリエーショングループの平成22年12月1日から平成23年11月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ファンドクリエーショングループ及び連結子会社の平成23年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ファンドクリエーショングループの平成23年11月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ファンドクリエーショングループが平成23年11月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成23年2月22日

株式会社ファンドクリエーショングループ
取締役会 御中

清和監査法人

指定社員 公認会計士 川田 増三
業務執行社員

指定社員 公認会計士 藤本 亮
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファンドクリエーショングループの平成21年12月1日から平成22年11月30日までの第2期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ファンドクリエーショングループの平成22年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年2月23日

株式会社ファンドクリエーショングループ
取締役会 御中

清和監査法人

指定社員 公認会計士 川田 増三
業務執行社員

指定社員 公認会計士 藤本 亮
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファンドクリエーショングループの平成22年12月1日から平成23年11月30日までの第3期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ファンドクリエーショングループの平成23年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。